

掛川市・大東町・大須賀町任意合併協議会

新市建設計画策定小委員会

第4回委員会資料

日時 平成15年7月28日（月）
午後1時30分から
場所 大須賀町役場南館第1研修室

掛川市・大東町・大須賀町任意合併協議会
新市建設計画策定小委員会第4回委員会次第

日時 平成15年7月28日(月)

午後1時30分から

場所 大須賀町役場南館第1研修室

1. 開会

2. 協議事項

- (1) 新市の重要な資源特徴について
- (2) 新市が抱える重要課題について
- (3) 新市の資源特徴を生かしたまちづくりのあり方について
- (4) 住民意向調査集計結果(地域別集計)について
- (5) 新市建設計画の先行事例の紹介について
- (6) 新都市ビジョンの骨子(案)について

3. その他

4. 閉会

1 . 新市の重要な資源特徴

(1) 新市全体の資源特徴

自然的資源特徴

1) 県内二大都市の中間に位置

新市は静岡県の二大都市静岡市と浜松市の中間に位置し、企業の営業所や出張所の立地の可能性がある。さらに広域的に眺めると、新市は東京と大阪の中間に位置しており、東西の消費地に対して輸送上効率的な条件を持つ。

2) 南北に長い市域形状

新市は南北に長い市域であり、北側から山地、平地、丘陵地、平地、海岸と地形的な変化が見られる。一つの市内で多様な自然環境を体験することが可能である。

3) 温暖な気候、海岸の西風

新市は温暖な気候であり、農業や余暇活動に適している。さらに海岸線は西風が強い。太陽光や風力といった自然エネルギーの活用にも適している。

4) 約10 k mに及ぶ海岸線、砂地

新市南部は遠州灘に面し、約10 k mにわたり砂浜海岸が続く。遠浅の海は投げ釣、荒波はサーフィンに適している。砂浜は新しい野外活動の場所としての可能性を備えている。海岸の後背地は砂地栽培に適し、特徴ある農産物が生産されている。

5) 多数の溜池

新市には原野谷川、菊川等の河川が流れている。また、農業用水確保のため、溜池が多数あり、親しみやすい水面に恵まれている。

6) 山、平地、海岸に温泉

新市北部の山間地、中央部の平地、さらに南部の海岸線に温泉があり、それぞれ個性ある活用がなされ、新市は「保養」の機能にも恵まれている。

7) 特徴ある農産物

新市は全国一の緑茶の生産地である。この他、砂地を活用して高品質の野菜、果物を生産しており、特徴ある農業が展開されている。

8) 緑に包まれた景観

新市は北部の山間地、中央部の小笠山に緑の拠点がある。さらに全市的に丘陵地に茶畑が経営され、緑にあふれる景観を持つ。

ハード系の資源特徴

1) 広域交通体系に優れる

新市には東名高速道路が東西に横断し、掛川インターチェンジが新市中央部に位置して、広域交通に優れている。さらに国道1号が新市中央部、国道150号が新市南部を横断しており、自動車による交通利便性が良好である。また、新市北部には第二東名高速道路も建設中であり、さらなる交通利便性の向上が期待される。

2) 新幹線停車駅を抱える

新市は東海道新幹線の掛川駅、東海道本線の掛川駅を抱え、鉄道による交通利便性が良好である。

3) 近接して静岡空港が開港

平成18年度の開港を予定している静岡空港は、新市から東へ約20kmの位置である。静岡空港から最も近接した新幹線駅は掛川駅であることから、掛川駅と静岡空港間にも人、モノの流動が生じる可能性がある。

4) 御前崎港にも近接

新市の南東側約20kmの位置に、重要港湾に指定される御前崎港があり、完成自動車の輸出、自動車部品の移出などに利用されている。大型船の寄港に向け、港湾施設が充実されつつあり、新市は海上輸送にも利便性が高い。

5) 有力企業が立地

エコポリスをはじめとして、新市には国内の有力企業、外資系企業が立地している。携帯電話や液晶ガラスに関しては、国内有数の生産拠点を抱える。

6) 拠点的医療機関が立地

新市には病床数450床を抱える掛川市立総合病院があり、地域の拠点的な医療機関として貢献している。さらに東京女子医科大学看護学部があり、看護に関する人材を全国から集めて育成している。

ソフト系の資源特徴

1) 3つの城を持つ

新市には掛川城、横須賀城跡、高天神城跡がある。さらに宿場町や城下町の面影を残す街並みも散在している。こうした歴史的な資源は、「住んでよし、訪れてよしの街づくり」の資源としての可能性を持っている。

2) 報徳の精神

新市は、「勤労」「分度」「推譲」の思想を柱とした報徳の教えが普及した歴史を持つ。モラルの低下や社会経済が行き詰まりを見せている中で、道徳と経済の調和した社会づくりを目指す報徳思想がいま注目されている。

3) 住民参加

新市には、住民の意見を行政に汲み上げる仕組みがあり、また地域活動も盛んである。こうした住民参加をさらに発展させて、住民と行政の協働による街づくりの可能性はある。

4) 生涯学習が普及

新市では生涯学習が全国でも先駆けて実践されている。学習施設も充実し、人材育成が進められている。

5) 外国人が多数居住

新市からは中国留学生教育に情熱を注いだ松本亀次郎を輩出した歴史を持つ。さらに現在では外国人が多数居住し、国際的な交流をしやすい環境がある。

(2) 小笠山を中心とした資源特徴

自然的資源特徴

1) 広大な面積

小笠山は東西約15km(周辺自治体含む)、南北10kmに及び、広大な面積を有する。新市の生態系を支えるとともに、新市を象徴する山である。

2) 谷戸地形

標高264mの小笠山は山全体が丘陵地である。しかし複雑に谷戸が入りこんでおり、広い平地は確保しにくく、面的な利用は山麓に限定することが望まれる。

3) 多彩な自然

小笠山は人工植林によるクロマツと天然のアカマツを主とする森林であり、クロマツ、アカマツが衰退した場所にはシイ・カシ類やコナラなどの樹林が見られる。多数の野鳥や昆虫が見られ、貴重種(オオタカ、ハッチョウトンボ、ムカシヤンマ等)が生息し、自然環境を保全すべき山である。

4) 新市の中心位置

小笠山は1市2町のほぼ中心的な位置にあり、各市町の中心市街地からもほぼ均等の距離である。1市2町の住民にとって公平に利用しやすい場所であり、新市の均衡ある発展に向けて役立つ場所である。

社会的資源特徴

1) 法的規制

小笠山の主要な尾根は主として保安林に指定されており、開発は規制されている。自然観察など森林が持つ多様な機能を尊重した利用が適する。国有林も見られ、国有地の保安林解除には、大臣の許可が必要になる。

2) 広域的な交通利便性

小笠山は東名高速掛川インターや新幹線掛川駅からの交通利便性が良く、新市だけではなく、市外からの来訪者を集めやすい交通条件を備えている。

3) 静岡空港からの交通利便性

小笠山から東へ約20kmの位置には、平成18年度の開港を予定している静岡空港があり、空路によって、全国あるいは海外からの往来の可能性も備えている。

4) エコパ(競技場)の存在

小笠山には総合運動公園「静岡スタジアム・エコパ」が整備されている。大規模なスポーツイベントが開催可能であり、知名度も高い。

5) 自然環境を尊重した活用の可能性

小笠山は新市の中央に位置することから新市の均衡ある発展に役立たせるべきである。豊かな自然環境は保全すべきであり、活用は山麓に限定し、しかも自然環境と調和した利用内容であることが適切である。また、小笠山は広域的な交通利便性に優れることから、広域圏からの集客の可能性を備えている。

2 . 新市の重要な課題

(1) 都市基盤面の重要課題 新市の背骨となる南北軸の形成

道路 - 円滑な南北往来を実現する幹線道路が必要

新市は、東名高速道路、国道 1 号、150号と東西方向の幹線道路には恵まれている。しかし、市域が南北方向に長い形状にもかかわらず、南北幹線道路は貧弱であり、新市北部と南部との円滑な往来に支障をきたしている。新市の一体性を実現するため、散在する公共施設を利用しやすくするため、あるいは掛川駅、東名高速道路掛川インターチェンジ、第二東名高速道路(仮称)森・掛川インターチェンジへの連絡性を向上するためにも、短時間で南北移動を可能にする南北幹線道路を確保することが必要になっている。

交通 - 交通弱者の容易な移動を実現する仕組みが必要

新市は南北に長く、なおかつ市街地や集落が分散しており、南北方向の公共交通に弱みを抱えている。さらに近年路線バスの廃止や便数の削減により、公共交通の利便性が低下している。高齢者の通院や買物の利便性を向上するため、散在する生涯学習施設や余暇施設の利用を促すためにも、地域特性に応じた交通手段を提供し、交通弱者の容易な移動を実現することが必要である。

情報 - 新市の一体感の醸成に向けた情報ネットワーク形成が必要

新市は広大な面積を有するとともに、新市の中央部には小笠山が位置して 1 市 2 町のつながりを分断している。地形的な制約を乗り越え、1 市 2 町が一つの自治体として円滑に融合するためには、地域間の連帯性を強める情報ネットワークを形成することが必要である。庁舎間や公共施設間を情報ネットワークで連携するとともに、日常生活に密着した地域情報を全住民に効果的に伝達し、全住民が地域情報を共有化する仕組みを整え、新市の一体感醸成を促すことが重要である。

開発 - 小笠山に、均衡ある発展につながる機能配置が必要

新市の中心に位置する小笠山は恵まれた自然環境を有しており、これまで開発はなされてこなかった。しかし、小笠山の山麓は広域交通体系に近接し利便性がよく、なおかつ 1 市 2 町それぞれの地域からほぼ等距離にあることから、適切な機能を山麓に配置して、新市の均衡ある発展につなげていくことが重要である。

小笠山は、新市北部の山間地から南部の海岸に至る南北自然軸の中心であり、自然環境を尊重し、自然環境を十分に生かせる機能を配置することが必要である。

高次都市機能 - 12万人都市としての高次都市機能の集積が必要

新市の人口（平成12年国勢調査）は、114,328人となる。新市は約12万人の都市となるが、商業機能（百貨店、大規模商業施設等）、業務機能（企業の支店、営業所等）、研究開発機能（高等教育機関、研究機関等）といった高次都市機能の集積は不十分であり、静岡市と浜松市の中間に位置する中心的都市として発展するよう、高次都市機能を充実させることが必要である。

地域バランス - 周辺地域の振興が必要

新市の都市機能が集積している中心部は、合併によって発展していくことが予想される。新市の中心部が発展するだけでなく、新市の周辺地域においても、合併によって振興がなされるように地域バランスを考えた振興策が必要である。

（2）産業面の重要課題 次代に向けた産業の育成

農業 - 競争力ある農業に進化させることが必要

新市は地形的条件や温暖な気候に恵まれ、水田、茶園、海岸砂地を活用した農業に特色を持っている。しかし、農業従事者の高齢化が進み、後継者不足という課題を抱えている。さらに米の生産調整の強化、海外からの低価格の農産物の輸入増加などにより、農業を取り巻く環境は一層厳しくなっている。新市の基幹的産業の一つである農業を、次代に向けて維持発展させるため、人材育成とともに、社会環境の変化に対応した競争力ある農業に進化させていくことが必要である。

工業 - 既存立地企業・地場企業への支援、起業応援が必要

新市には有力企業が立地し、県内有数の製造品出荷額を誇っている。しかし、生産拠点は世界的な視野で移転する時代になっており、長期的な展望のもとに、既存立地企業を新市に定着化させる仕組みを整えることが必要になっている。さらに、新市の経済的発展、雇用機会の確保に向けて、地場企業に対する支援拡充、起業応援制度の拡充が必要である。

商業 - 既存商店街が衰退、地域商業の活路開拓支援が必要

大型店の出店や店主の高齢化に伴い、既存商店街は苦戦している。地域に密着した商店街は、住民の最寄りの買物場所であるとともに、活気あるまちづくりに不可欠な要素であり、維持することが望まれる。大型店と共存できるよう、既存商店街の活路開拓に対して支援することが必要である。

健康産業 - 地域資源を生かした健康産業の育成が必要

新市は森林、海岸、温泉といった自然環境に恵まれ、さらに花や庭園を主役とした集客施設や大規模なリゾート施設も散在している。こうした地域資源が備える特性を生かしながら、人々の健康増進、心身のリフレッシュをテーマとした産業の育成を促していくことが必要である。

サービス - 交通利便性を生かし、多様なサービス業の立地促進が必要

県内の市町村合併が進むことによって、都市間競争はさらに進展し、生活のしやすい都市、ビジネスのしやすい都市に人や企業が集まることが予想される。生活のしやすい都市やビジネスのしやすい都市になるためには、多種多様な対生活サービス業、対事業所サービス業が集積していることが重要である。新市は静岡市と浜松市の中間に位置し、新幹線駅や高速道路インターチェンジを抱え広域交通体系に恵まれている。加えて生産拠点の集積度合いは、県内でも有数である。こうした条件を踏まえて、さらに新市に人や企業が集まるよう、多様なサービス業の立地を促す仕組みを整えることが必要である。

(3) 生活面の重要課題 豊かさが実感できる生活環境の提供

都市機能の円滑な活用 - 掛川の都市機能の利便性向上

南北幹線道路が不十分であるため、2町の住民から見て、掛川市の主要公共施設、交通施設、商業施設は利用しにくい。掛川市に集積している都市機能に関して、2町の住民が容易に利用できるよう、南北道路、交通機関、施設案内を充実させることが必要である。

田園機能の楽しさ発掘 - 2町の自然・余暇・文化環境の発掘

掛川市の住民から見て、2町が備える海、海岸、余暇施設、街並み、食文化などの楽しさは、明確には認識しにくい。2町の自然環境、余暇環境、文化環境の面白さを引き出すよう環境整備を進め、誰もが楽しさを享受できる仕組みを整えることが必要である。

散在する公共施設有効活用 - 多彩な公共施設の活用と効率化

新市は1市2町の多彩な公共施設を抱えることになる。散在する公共施設を有効に活用して住民の生活を豊かなものとし、さらには効率的な運営に努めることが必要である。

散在する資源の有効活用 - 相乗効果を生み出す仕掛け

新市には城下町や宿場町に関連した歴史的資源や、温泉、集客施設が散在している。しかし、資源相互の連携や、統一の見地に基づく個性化は不十分であり、相乗効果を生み出すには至っていない。散在する資源を束ねて有効に活用することが必要である。

少子高齢化への対応 - 福祉、医療分野の充実

新市においても少子高齢化が進展し、福祉や医療分野で新たな需要が生じるものと考えられる。新市の既設福祉施設、医療施設、医科系大学の活用、相互連携を図るとともに、福祉分野では民間事業者の参入を促し、住民に対して手厚いサービスが提供される仕組みを整えることが必要である。

防災対応 - 東海地震への対応

東海地域は約100年から150年の周期でマグニチュード8程度の大地震が起こっている。1854年の安政東海地震以来約150年も大地震が発生していないことから、東海地震に備えた街づくりをすることが必要になっている。

下水道整備の推進 - 生活排水処理の向上

公共下水道、合併浄化槽、農業集落排水等によって汚水処理がなされている割合である生活排水処理率は、県平均値を下回っている。地域に応じた汚水処理の手法を採用しつつ、水系の水質向上を図ることが必要である。

地域特性の活用 - 異なる個性の充実と連携

掛川市の東部、西部、北部、さらには大東町、大須賀町は、それぞれ地域特性が大きく異なる。新市の地域ごとの異なる個性を大切に、地域相互の連携等によって個性を生かしたまちづくりを進めることが必要である。

3 . 新市の強みを活かしたまちづくりのあり方

新市のまちづくりが目指すべき「将来像」に関して、検討を行っていない段階ですが、上記の「資源特徴」と「課題」だけでは、新市のまちづくりに関して具体的なイメージが把握しにくいと考え、「まちづくりのあり方」に関するたたき台を作成しました。この「まちづくりのあり方」をたたき台としながら、新市のまちづくりの方向性についてご意見を頂戴したいと考えております。

(1) 新市の背骨となる南北軸の形成

南北幹線道路の形成

新市の円滑な往来の実現、新市の一体性の醸成、散在する公共施設の利便性向上に向けて、新市を南北方向に縦断する幹線道路を整備する。

地域特性に応じた交通システムの導入

地域特性や輸送の効率性などを考慮しつつ、庁舎間、主要公共施設を連絡し、交通弱者の通学、買物、通院などに役立つ交通システムを導入する。

南北情報ネットワークの形成

庁舎間や主要公共施設間を情報ネットワークで結び、身近な公共施設から手続き、生涯学習受講などが実現できる情報システムを整備する。

小笠山の山麓に新たな保養ゾーンの創設

小笠山山麓の自然環境を活かし、住民や来訪者に「和み」「癒し」を提供する新しい保養ゾーンを創設する。あわせて新しい保養に関する「人材」「情報」の集積を図り、新しい産業の育成を進める。

高次都市機能の誘致、創設

都市間競争に勝ち、さらに新市の新たな成長産業の育成にも貢献するよう、研究開発機能、業務機能などの高次都市機能を誘致、創設していく。

(2) 新市の次代に向けた産業の育成

健康志向に対応した高付加価値農業の育成

健康志向に関する食品市場動向、健康増進に大きく貢献する農産物の栽培技術、高級食材の流通等に関する情報・技術を蓄積した研究機関との連携を構築し、若者が夢を持てる農業の育成、付加価値の高い農業の実現を図る。

総合的な企業・起業支援による工業振興

新市の企業に対する経済支援、営業支援の拡充、さらには起業支援制度を創設し、新市の工業が持続的に発展する仕組みを整える。

集客力向上による商業の活性化

娯楽機能の誘致、観光機能との連携、既存商業者や新規出店者への支援拡充、情報化による営業力強化、個性的な地場産品の開発、大型店との連携等を進め、商業者・商工団体・行政が協力して集客力向上を図り、商業の活性化を図っていく。

散在する歴史的資源の再生・連携・ネットワーク化による観光振興

掛川城、横須賀城、高天神城、歴史的な街並み等に対して歴史ゾーンを設定し、物語のある環境整備を進めるとともに、散在する歴史ゾーンを連絡する交通システムを導入し、新市の観光振興を図る。

進出支援による都市型サービス機能の集積

新市に新たな進出を行う事業所に対して支援制度を創設し、住民の暮らしや事業活動をサポートする多種多様な都市型サービス業が集積していく仕組みを整える。

(3) 豊かさが実感できる生活環境の提供

「回遊」を通じた交流ゾーンの形成

新市の海岸、散在する余暇施設、独自の食文化を活用した催事の開催、楽しさを発掘する団体の組織化などを進め、活動の発展を促す環境整備を進めていく。新市の資源を回遊することを通じて、地域資源の価値を再認識し、住民、来訪者が楽しく交流できるゾーンとして魅力を高めていく。

情報システムを活用した利便性の高い公共施設の提供

新市に散在する多彩な公共施設を情報ネットワークで連絡し、離れた場所で開催される講習会、セミナーに身近な公共施設で受講できる仕組みを整える。

「和み」を特長としたまちづくり

新市には歴史的資源、温泉、花を主役にした集客施設、観光農園、茶畑、山、海といった人の心を和ませる資源が集積している。「和み」の特長にさらに磨きがかかるよう、「和み」のルート化、環境整備などを進めていく。

地球環境に優しいまちづくり

太陽光や風力などの自然エネルギーの活用、廃棄物の再利用など、環境負荷の低減につながる仕組みを整え、個性的なまちづくりと地球環境に優しいまちづくりを進めていく。

予防医学やスローフードによる健康都市づくり

拠点的医療機関や医療系研究機関の連携、看護系人材の活用等により、予防医学の充実、介護の充実を進めていく。さらに地域の高品質の食材、緑茶を活用しつつ、「食」スローフードに基づいた健康都市づくりを展開していく。

福祉サービスの充実したまちづくり

新市の既存福祉施設の有効活用、家庭的雰囲気にあふれた福祉施設の拡充、福祉ボランティア活動やNPO活動への支援等を通じて、高齢者、児童、障害者福祉サービスを充実させて、市民が安心して暮らせるまちを実現していく。

災害に強いまちづくり

市街地への公園整備、防災設備の充実、公共施設の耐震性の向上などにより、新市を災害に強いまちにしていく。

報徳の思想に基づいた地域活動の促進

報徳の思想や住民参加が定着している特長を踏まえ、ボランティア活動、NPO活動への支援を充実させ、新たな地域活動を促進する。

情報化先進都市の形成

情報や通信系の有力企業と連携し、学校、地場企業、商店などの情報化支援、情報化に強い人材の育成を進め、新市全体が情報化に対応した先進的都市を目指していく。

地域を支える多彩な人材の育成

優れた経営者、技術者、教育者等との交流機会の充実、住民の学習意欲を促す支援制度の創設、教育文化施設の拡充等を通じて、地域を支える多彩な人材が育つまちづくりを進めていく。

地域の個性に磨きをかけるまちづくり

新市内のそれぞれの地域の個性に着目し、先鋭化や地域間の連携によって個性をさらに生かすまちづくりを行う。「個性化」によって地域活性化の糸口を切り開き、その効果を地域全体に広げるまちづくりを進めていく。

人が住みたくなるまちづくり

生活利便性に優れ、自然が豊かで、しかも教育文化環境が充実しているといったまちを実現し、新市を訪れる人が、たびたび訪問したくなり、そして新市で生活したくなるようなまちづくりを進める必要がある。

4 . 住民意向調査集計結果（地域別集計）について

（別冊）

5 . 新市建設計画の先行事例

(1) 東京都西東京市

- ・ 合併年月日 - 平成 13 年 1 月 21 日
- ・ 合併の方式 - 新設合併
- ・ 合併市町村数 - 2 市 (田無市、保谷市)
- ・ 人口 - 180,885 人 (平成 12 年国勢調査)

(2) 静岡県静岡市

- ・ 合併年月日 - 平成 15 年 4 月 1 日
- ・ 合併の方式 - 新設合併
- ・ 合併市町村数 - 2 市 (静岡市、清水市)
- ・ 人口 - 706,513 人 (平成 12 年国勢調査)

(3) 長野県千曲市

- ・ 合併年月日 - 平成 15 年 9 月 1 日 (予定)
- ・ 合併の方式 - 新設合併
- ・ 合併市町村数 - 1 市 2 町 (更埴市、戸倉町、上山田町)
- ・ 人口 - 64,594 人 (平成 12 年国勢調査)

西東京市の新市建設計画の将来像、
基本目標、施策の構成

新市建設の基本理念

21世紀を拓き 緑と活気にあふれ 一人ひとりが輝くまち

21世紀の東京都にはじめて誕生する新市は、やさしさにあふれたゆとりあるまちを目指します。市民の自己実現を応援するとともに、市民参加を積極的に推し進め、希望と調和に満ちたまちづくりを進めます。

地域の中で支えあう福祉のまち

高齢化が進展していく中、高齢者や障害者など社会的弱者に対して優しいまちを実現します。高齢者や障害者などがゆっくり散歩できたり、車いすでの外出が一層容易になるようバリアフリーのまちを実現するとともに、就業や社会参加への道も拓き、市民が地域の中で支えあう仕組みを整え、だれもが安心していきいきとした生活をおくることができる地域社会を創出します。

環境にやさしい美しいまち

緑と花にあふれ住民にやすらぎを提供できるような美しいまちを実現します。市内の公園緑地の拡充を図るとともに、街路の緑を充実させて、市内に残された貴重な自然環境を保全します。さらに、省エネルギーやリサイクルに貢献する仕組みを整え、環境にやさしいまちを創出します。また、環境問題について市民とともに考え行動できるように、学習機能を充実させ、環境にやさしい運動を展開していきます。

若者を育てるまち

安心して子供達を育てることができ環境を整えるとともに、子ども一人ひとりが尊重され、活気に満ちたまちを実現します。幼児期の子育てに対する支援機能を充実させて、子どもを持つ女性が自己実現できる環境を整えます。さらに、幅広い教育問題について相談できる仕組みを整えたり、情報化時代にふさわしい教育環境を整え、青少年の健全な成長を応援するまちを実現します。また、田無、保谷両市の伝統的な文化を次世代に適切に伝える仕組みを整えます。

安全で快適なまち

道路整備、駅前整備など、市街地整備をさらに進めるとともに、通学環境の安全性向上を図ったり、防災機能を向上させて災害にも強いまちを実現します。また、公園や緑地など子どもたちが安心して遊べる場所を確保したり、スポーツやコミュニティ活動が活発に行われるようなまちを創出します。このように市民の生活環境のさまざまな側面に対して、安全性、利便性、快適性を一層向上させて、暮らしやすいまちを実現します。

さまざまな産業が育つまち

新しい事業や起業が育ちやすいまちを実現します。さらに、地域商業を発展させ、にぎわいと活気のあるまちを実現したり、将来的に発展が期待されるテレワーク等の対応したまちづくりを進め、地域間競争にも耐えられるようなまちを実現します。

市民が参加する活力あるまち

行政と市民が共に考え、共に行動することができるように、市民がまちづくりに積極的に参加できる仕組みを整えます。行政と非営利団体との適切な役割分担の実現、非営利団体への支援拡充、情報公開制度の拡充などにより、幅広い市民の意見が反映されるまちを実現します。

将来像を実現するための基本的な考え方

市民参加のまちづくり

生活圏を重視したまちづくり

仕組みを重視したまちづくり

重点施策によるまちづくり

主要施策

福祉施策の充実
健康の保持・増進
住環境の改善

主要施策

公共緑化の推進
民有地緑化の推進
環境対策の充実
ごみの減量化・資源化

主要施策

学校教育の充実
社会教育・生涯学習の充実

主要施策

道路の整備
放置自転車対策
公共交通の拡充
駅周辺の整備
庁舎の整備
防災対策の充実
スポーツ施設の整備

主要施策

商工業・農業の育成

主要施策

市民との協働及び支援
市民参加の推進と情報の公開
女性の自立と社会参加
コミュニティの形成

静岡市の新市建設計画の将来像、
基本目標、施策の構成

新市の基本理念・新市の将来像

新市建設の基本理念
「自立と参加」「共生と持続と循環」「承継と創造と交流」
新市の将来像

「心と自然を尊ぶ市民が築く、人間躍動都市」

新市建設の主役は市民であり、風格ある自立した市民一人ひとりが、それぞれの能力に応じた役割と責任を担い、活発な相互作用を繰り返しながら、社会経済環境の変化を的確にとらえて発展・進化する都市を、都市が目指していく都市の姿として描き、「心と自然を尊ぶ市民が築く、人間躍動都市」を、新市の将来像とする。

協働・共創して地域の可能性を最大限に引き出し、創造を發揮するまち

生き活きと安全、安心、快適に、共に暮らすことができるまち

多様で高次・高質なライフスタイルを実現できるまち

新たな文化や産業を創造し、国内外に積極的に発信するまち

国際性豊かな人・物・情報にあふれ、活発に行き交うまち

人と地球に優しい快適生活環境の実現

市民が安心して生活できる生活環境の整備を推進するとともに、環境に調和したゼロエミッション(廃棄物ゼロ)都市を目指して、資源循環型社会システムを構築する。また、災害・危険から生命や財産を守り、市民が安心して暮らせる災害に強い安全な都市を目指す。

市民が安心して活躍できる人間福祉の充実

保険・福祉・医療の県境整備と相互の連携による体系的な健康づくりと、市民の自主的な健康づくりを支援するとともに、市民の自立と社会参加により、市民誰もが、生き活きと活躍できる都市を目指す。

人格を高める文化創造と教育の充実

国際化・情報化に対応した個性的な学校教育をはじめ、市民が意欲をもって生涯学び続けることのできる環境の整備を推進するとともに、地域固有の歴史や伝統、文化を承継し、市民文化の創造を目指す。

新市全体の均衡ある発展のための多核型都市の形成

新市に3つの都市核(東静岡、静岡、清水)を形成するとともに、複数の都市拠点を配置し、それぞれを交通・情報ネットワークで有機的に結ぶことにより、新市全体の均衡ある発展と都市機能の飛躍的な向上を目指す。

人、物、情報が活発に行き交う独自の中枢経済圏域の確立

100万人を超える経済圏域の中枢拠点として、さらには国土中央部(甲・信・越・駿)の枢要な役割を担う都市として、政令指定都市レベルの経済力を持つ、人、物、情報が活発に行き交う独自の中枢経済圏域の確立を目指す。

市民満足のための高次・高質な行政の推進

市民、行政、企業の相互の信頼と適切な役割分担によってパートナーシップを確立するとともに、スケールメリットを活かす等行政改革を推進し、市民が心から満足する高次・高質な行政の推進を目指す。

施策の方針

資源循環型社会システムの構築
安全・快適な生活基盤の構築
災害に強い安全なまちづくり

施策の方針

健康長寿日本一の福祉都市づくり
市民の自立と社会参加の支援
子育てに対する支援

施策の方針

生涯を通じての学びとスポーツの推進
地域学校教育環境の再整備
市民文化の創造

施策の方針

都市核及び都市拠点の整備
人と自然の共生による山間地の振興
総合交通と情報通信ネットワークの形成
清水港の機能向上と整備

施策の方針

産業構造の高度化の推進
新産業への創業・経営支援
誇りに満ちて働く市民への支援

施策の方針

市民と行政のパートナーシップの確立
市民満足のための高次・高質な行政の推進

具体的なプロジェクト(実施場所、実施期間、概算事業費を明記)

千曲市の新市建設計画のまちづくりの基本方針、方向、施策

まちづくりの基本方針

千曲川に月や花が映える、共生と交流の都市
歴史の継承・市民の参画・未来への飛翔

共生のまちづくり

個性・こころのつながりを尊重した「憩いと癒しのまち」
このまちの落ち着いた環境を生かして、人々や地域の個性を尊重し、心のつながりを大切にしたい安心して住める「憩いと癒しのまち」を目指す。
自然環境や豊かな歴史警官に育まれた循環型社会の形成、自然との共生
このまちは、自然が豊富で豊かな歴史景観にも恵まれている。こうした環境を生かし、自然と共生しながら身近な生活の中で生産・消費のあり方を問い直す循環型社会を構築する。
すべての人が人間らしく生きられるまち(ユニバーサルデザイン)
自然と共生しながら「憩いと癒しのまち」をつくることで、このまちは誰もがあらゆる障害や障壁・差別感などを感ずることなく、人権が尊重され人間らしく生きられるまち・ユニバーサルデザインのまちを実現する。

交流のまちづくり

高速交通・幹線交通の結節点としての地理的条件の有効活用
このまちは、道路整備が進んだことにより関東・中京・北陸方面からの高速道路が交わる場所となり、人や物が集まる条件に恵まれた場所となった。こうした条件を活用して、人や物が集まり活発に活動する、経済的に活性化された交流のまちを目指す。
温泉等の地域資源を生かした経済的活性化、産業・文化の振興
このまちは、古くから温泉や歴史的遺産など内外から人が集まる資源にも恵まれている。こうした資源を活用し、他にない個性を發揮しながら経済的活性化と産業・文化の振興に取り組む。

協働のまちづくり

住民参画によって市民が支えるまち
生活に欠かせない基盤の整備が進み、個性や人のつながりが尊重されるようになると、住民が積極的にまちづくりに取り組むことが求められる。「住民参画」により住民と行政が共に手を携えて進めるまちづくりを目指す。
知識や経験を得る場に恵まれ、多様な活動が開くまち
このまちを住民参画によって支えていくために、これまで以上に様々な人材を育てていく必要がある。教育や仕事の場を通じて、特色のある人材を多く育て、積極的な活動が展開できるまちを創っていく。

ひとを癒す

日々の暮らしの中で蓄積されてきた疲れを取り、明日への活力を得ること、つまり誰もが「体の健全さ」「心の健全さ」を取り戻すことで人は癒される。そのため、健康づくりや医療、福祉、人権教育などの多様な取り組みを行う。
・健康づくり
・医療の充実
・高齢者福祉の充実
・障害者福祉の充実
・勤労者福祉の充実
・人権教育・同和教育の推進

市民が憩う

恵まれた自然環境や歴史的街並みなどを活用して、私たちの暮らしに豊かさを与えてくれる「憩いの場」の充実を目指す。それは施設を造ることに限らず、誰もが親しみやすくするための工夫をすることによって達成されるものである。こうした考えを念頭におき、「市民が憩う」場の確保に向けた取り組みを展開する。
・千曲川・冠着山等自然資源の有効活用
・歩きやすい環境づくり
・来訪しやすい市街地づくり
・文化施設・スポーツ施設の充実

科野の風土を受け継ぐ

森將軍塚古墳や姨捨伝説など長い歴史の中で育まれてきたものを大切にしながら、「科野の風土」を受け継ぎ、次の世代へと継承することで、他にない個性を持ったまちを創っていく。そのために、伝統文化の保護や自然環境の保全、循環型社会の構築に取り組む。
・史跡の保存と活用
・文化財・自然環境の保全
・歴史的な街並みの保全
・生産・消費を通じた循環型社会の形成

生活環境を支える

豊かな環境と快適な生活の両立を目指した取り組みは、市民の協力を得て進めることが大切である。すなわち、新しい都市に必要な生活基盤を整備するとともに、従来からの消費を中心とした生活様式を見直し、地域内循環を促進する取り組みを市民と行政の協働で進める。
・上下水道の整備と美しい流れの復活
・ごみ処理とリサイクル推進
・安全のまちづくり
・安心のまちづくり
・環境管理対策の推進
・農地森林の多面的機能保全
・情報化の促進

まちが賑わう

まちが個性的な産業を持った都市として21世紀に飛躍を遂げるために、地域の資源をよみがえらせ、個性ある産業を振興させる取り組みに対して積極的に支援していく。同時に道路・交通など、観光交流や産業に欠かせない基盤整備に努める。
・幹線道路網の整備
・公共交通の充実
・農林業振興
・観光振興
・工業振興
・商業振興

人が育ち、地域を担う

将来への不透明感が増している今、何よりも重要なのは将来を担う人材を育てることである。このことは、単に学校教育にとどまるものではなく、子供からお年寄りまで全ての人が自ら学び、様々な経験を積むことで育まれるものである。そして、地域の将来を考え、自ら責任を持って取り組んでいける人々が、連携してまちづくりを進めることのできる地域を目指していく。(後略)
・子育て支援の充実
・学校教育の充実
・生涯学習の活発化
・男女共同参画の推進
・国際性豊かな人材の育成
・住民活動の活発化

住民と行政によるまちづくりの推進

今、全国的に行政の役割や取り組みのあり方が問われている。これまでの行政が主導的に担ってきたまちづくりから、住民が主体となって考え、行動し、それを行政が支えるという「住民と行政の協働の仕組み」を構築し、真の住民自治を確立していくことが必要である。
・住民と行政の協働の仕組みの構築
・新市住民の交流・連携の促進と住民活動の活発化
・行政組織のスリム化・効率化、新たな事業手法の導入
・広域行政の推進、国県との連携

6 . 新都市ビジョンの骨子（案）

(1) 合併の必要性

住民の生活圏の広域化への対応

通勤・通学、買物、通院といった住民の日常生活の範囲は、住まいのある市町村を越えて周辺市町村に広がっている。掛川市 16,720 人、大東町 5,707 人、大須賀町 3,505 人が通勤・通学で他市町村に流出し、さらに、他市町村から通勤・通学で流入する人数は、掛川市 16,089 人、大東町 6,488 人、大須賀町 3,330 人である。約 26,000 人が市町村を越えて通勤・通学しており、こうした住民の生活圏の広域化に対応するためには、1 市 2 町が一つになり、一層利便性の高いまちづくりを進めていくことが必要である。

住民ニーズへの的確な対応

行政に対する住民や地域からのニーズに的確に対応するためには、単独市町村よりも 1 市 2 町が協力してニーズに対応することが必要になっている。1 市 2 町では南北方向の幹線道路を充実させることが最大の課題となっており、南北道路の充実が、住民の日常生活の利便性向上につながっていく。住民ニーズに沿って地域の課題を解決していくためには、1 市 2 町が協力して解決にあたる必要がある。

少子高齢化への対応

1 市 2 町では少子化と高齢化が徐々に進行している。平成 12 年時点の 1 市 2 町の年少人口は 18,463 人であったが、10 年後の平成 22 年には約 17,200 人になるものと予想される。また、1 市 2 町の老年人口は 21,018 人であったが、平成 22 年には約 25,000 人になるものと予想される。地域を支える若者が減少すれば地域活力は低下し、高齢者が増加すれば、福祉や医療の充実が求められることになる。こうした社会環境の変化に的確に対応するためには、合併して行政組織の合理化を図り、その合理化で生まれた余力を、今後ニーズが高まる福祉・医療分野等に手厚く投入していくことが必要である。子育てや高齢者に対して、きめ細かい行政サービスを提供するためには、既存の福祉施設・人材・活動組織等を有効に活用することが望ましく、1 市 2 町が合併して対処することが求められている。

地方分権に対応した行政基盤の強化

地方分権によって自治体の権限は拡大し、さらなる自主性が求められる。社会環境が急速に変化する中で、自治体が的確な判断を行うためには、専門的知識や技術をさらに向上させることが必要である。人口規模の小さな市町村では、仕事の種類に比べて職員数が少なく、職員は分野が異なる仕事を兼務し、専門性は発揮しにくい。合併によって市町村の規模が大きくなれば、仕事の種類に応じた専門の担当者を配置しやすい。地方分権に対応した市町村に転換するためには、合併によって自治体の能力をさらに向上させることが必要である。

厳しい財政状況の中での財政基盤の強化

国や地方合わせて 700 兆円の債務額があり、国は地方交付税や国庫補助金の見直しをしようとしている。このため、1 市 2 町が現状の行政サービスを維持しようとしても、財政的には厳しさを増していくことが予想される。こうした状況の中で、財政基盤を強化していくためには、1 市 2 町が合併して行財政の効率化を進めることが必要である。

都市間競争への対応

静岡県内各地で市町村合併が検討され、将来的には県内のほとんどの自治体が市となり、平均的な人口規模は拡大するものと予想される。こうした状況の中で、1 市 2 町が現状のまま経過した場合、相対的に自治体の規模が小さくなり、人、物、情報の吸引力は低下することが危惧される。1 市 2 町の持つ魅力を相対的に低下させることなく、さらに発展を遂げていくためには、1 市 2 町が合併して、緑茶生産、工業集積、歴史文化等をはじめとする地域資源に磨きをかけて、新しい個性を発揮していくことが必要である。

(2) 1市2町の現状

位置

新市は、静岡県西部に位置し、東側は金谷町、菊川町、小笠町、浜岡町に、西側は袋井市、森町、浅羽町に接する。

市北部は、標高 832mの八高山をはじめとする山地であり、その南側に平地が開ける。市中央部には標高 264mの小笠山があり、その山麓は複雑な谷戸を持った丘陵地である。市南部には平地が広がり、遠州灘に面して約 10 kmにわたる砂浜海岸がある。

気候

新市の1年を通じての平均気温は 17 度前後、年間降水量は約 1,800mm、気候は温暖である。冬季は「遠州のカラッ風」と呼ばれる寒風が吹く。

面積

新市は、東西約 16 km、南北約 30 kmで南北に細長く、小笠山付近でくびれた形状である。面積は 265.63 km²であり、県内で 3.4%を占め、県内 21 市の中で静岡市、富士宮市に次いで 3 番目に広い都市となる。

人口と世帯

平成 12 年国勢調査によれば、新市の人口は 114,328 人、世帯数は 34,926 戸である。昭和 55 年から平成 12 年までの 20 年間、新市の人口は一貫して増加している。平成 12 年国勢調査による年齢階層別人口の構成比、国勢調査による人口の推移は、次のとおりである。

区分	年少人口 (15歳未満)	生産年齢人口 (15歳～64歳)	老年人口 (65歳以上)	合計
人口	18,463 人	74,847 人	21,018 人	114,328 人
構成比	16.1%	65.5%	18.4%	100%

資料：平成 12 年国勢調査

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
人口	94,398 人	99,974 人	105,030 人	109,978 人	114,328 人
伸び率(対55年比)	100%	106%	111%	117%	121%

資料：各年国勢調査

産業

平成 12 年生産農業所得統計によれば、新市の農業粗生産額は 244.5 億円であり、浜松市に次いで県内 21 市中第 2 番目の生産額である。県内市部の農業粗生産額の平均は 73.1 億円であり、新市はこの約 3 倍の生産額である。茶の生産額が最も高いことが特徴である。

平成 12 年の工業統計調査によれば、新市の製造品出荷額は 1 兆 2926 億円、従業者数は 20,393 人である。製造品出荷額の規模は、県内 21 市中第 3 番目である。

平成 11 年の商業統計調査によれば、新市の卸売業の年間販売額は、1,002 億円、従業者数は 1,784 人である。年間販売額の規模は、県内 21 市の中では第 10 番目に相当する。

平成 11 年の商業統計調査によれば、新市の小売業の年間販売額は 1,198 億円、従業者数は 6,865 人である。新市の小売業販売額は、焼津市や富士宮市に次いで県内 21 市中第 9 番目の大きさである。

(3) 1市2町の課題

都市基盤面の重要課題 新市の背骨となる南北軸の形成

1)道路 - 円滑な南北往来を実現する幹線道路が必要

新市は、東名高速道路、国道1号、150号と東西方向の幹線道路には恵まれている。しかし、市域が南北方向に長い形状にもかかわらず、南北幹線道路は貧弱であり、新市北部と南部との円滑な往来に支障をきたしている。新市の一体性を実現するため、散在する公共施設を利用しやすくするため、あるいは掛川駅、東名高速道路掛川インターチェンジ、第二東名高速道路（仮称）森・掛川インターチェンジへの連絡性を向上するためにも、短時間での南北移動を可能にする南北幹線道路を確保することが必要になっている。

2)交通 - 交通弱者の容易な移動を実現する仕組みが必要

新市は南北に長く、なおかつ市街地や集落が分散しており、南北方向の公共交通に弱みを抱えている。さらに近年路線バスの廃止や便数の削減により、公共交通の利便性が低下している。高齢者の通院や買物の利便性を向上するため、散在する生涯学習施設や余暇施設の利用を促すためにも、地域特性に応じた交通手段を提供し、交通弱者の容易な移動を実現することが必要である。

3)情報 - 新市の一体感の醸成に向けた情報ネットワーク形成が必要

新市は広大な面積を有するとともに、新市の中央部には小笠山が位置して1市2町のつながりを分断している。地形的な制約を乗り越え、1市2町が一つの自治体として円滑に融合するためには、地域間の連帯性を強める情報ネットワークを形成することが必要である。庁舎間や公共施設間を情報ネットワークで連携するとともに、日常生活に密着した地域情報を全住民に効果的に伝達し、全住民が地域情報を共有化する仕組みを整え、新市の一体感醸成を促すことが重要である。

4)開発 - 小笠山に、均衡ある発展につながる機能配置が必要

新市の中心に位置する小笠山は恵まれた自然環境を有しており、これまで開発はなされてこなかった。しかし、小笠山の山麓は広域交通体系に近接し利便性がよく、なおかつ1市2町それぞれの地域からほぼ等距離にあることから、適切な機能を山麓に配置して、新市の均衡ある発展につなげていくことが重要である。

小笠山は、新市北部の山間地から南部の海岸に至る南北自然軸の中心であり、自然環境を尊重し、自然環境を十分に生かせる機能を配置することが必要である。

5)高次都市機能 - 12万人都市としての高次都市機能の集積が必要

新市の人口（平成12年国勢調査）は、114,328人となる。新市は10万人を超える都市となるが、商業機能（百貨店、大規模商業施設等）、業務機能（企業の支店、営業所等）、研究開発機能（高等教育機関、研究機関等）といった高次都市機能の集積は不十分であり、静岡市と浜松市の中間に位置する中心的都市として発展するよう、高次都市機能を充実させることが必要である。

6)地域バランス - 周辺地域の振興が必要

新市の都市機能が集積している中心部は、合併によって発展していくことが予想される。新市の中心部が発展するだけでなく、新市の周辺地域においても、合併によって振興がなされ

るように地域バランスを考えた振興策が必要である。

産業面の重要課題 次代に向けた産業の育成

1) 農業 - 競争力ある農業に進化させることが必要

新市は地形的条件や温暖な気候に恵まれ、水田、茶園、海岸砂地を活用した農業に特色を持っている。しかし、農業従事者の高齢化が進み、後継者不足という課題を抱えている。さらに米の生産調整の強化、海外からの低価格の農産物の輸入増加などにより、農業を取り巻く環境は一層厳しくなっている。新市の基幹的産業の一つである農業を、次代に向けて維持発展させるため、人材育成とともに、社会環境の変化に対応した競争力ある農業に進化させていくことが必要である。

2) 工業 - 既存立地企業・地場企業への支援、起業応援が必要

新市には有力企業が立地し、県内有数の製造品出荷額を誇っている。しかし、生産拠点は世界的な視野で移転する時代になっており、長期的な展望のもとに、既存立地企業を新市に定着化させる仕組みを整えることが必要になっている。さらに、新市の経済的発展、雇用機会の確保に向けて、地場企業に対する支援拡充、起業応援制度の拡充が必要である。

3) 商業 - 既存商店街が衰退、地域商業の活路開拓支援が必要

大型店の出店や店主の高齢化に伴い、既存商店街は苦戦している。地域に密着した商店街は、住民の最寄りの買物場所であるとともに、活気あるまちづくりに不可欠な要素であり、維持することが望まれる。大型店と共存できるよう、既存商店街の活路開拓に対して支援することが必要である。

4) 健康産業 - 地域資源を生かした健康産業の育成が必要

新市は森林、海岸、温泉といった自然環境に恵まれ、さらに花や庭園を主役とした集客施設や大規模なリゾート施設も散在している。こうした地域資源が備える特性を生かしながら、人々の健康増進、心身のリフレッシュをテーマとした産業の育成を促していくことが必要である。

5) サービス - 交通利便性を生かし、多様なサービス業の立地促進が必要

県内の市町村合併が進むことによって、都市間競争はさらに進展し、生活のしやすい都市、ビジネスのしやすい都市に人や企業が集まることが予想される。生活のしやすい都市やビジネスのしやすい都市になるためには、多種多様な対生活サービス業、対事業所サービス業が集積していることが重要である。新市は静岡市と浜松市の中間に位置し、新幹線駅や高速道路インターチェンジを抱え広域交通体系に恵まれている。加えて生産拠点の集積度合いは、県内でも有数である。こうした条件を踏まえて、さらに新市に人や企業が集まるよう、多様なサービス業の立地を促す仕組みを整えることが必要である。

生活面の重要課題 豊かさが実感できる生活環境の提供

1) 都市機能の円滑な活用 - 掛川の都市機能の利便性向上

南北幹線道路が不十分であるため、2町の住民から見て、掛川市の主要公共施設、交通施設、商業施設は利用しにくい。掛川市に集積している都市機能に関して、2町の住民が容易に利用できるよう、南北道路、交通機関、施設案内を充実させることが必要である。

2) 田園機能の楽しさ発掘 - 2町の自然・余暇・文化環境の発掘

掛川市の住民から見て、2町が備える海、海岸、余暇施設、街並み、食文化などの楽しさは、明確には認識しにくい。2町の自然環境、余暇環境、文化環境の面白さを引き出すよう環境整備を進め、誰もが楽しさを享受できる仕組みを整えることが必要である。

3) 散在する公共施設有効活用 - 多彩な公共施設の活用と効率化

新市は1市2町の多彩な公共施設を抱えることになる。散在する公共施設を有効に活用して住民の生活を豊かなものとし、さらには効率的な運営に努めることが必要である。

4) 散在する資源の有効活用 - 相乗効果を生み出す仕掛け

新市には城下町や宿場町に関連した歴史的資源や、温泉、集客施設が散在している。しかし、資源相互の連携や、統一の見地に基づく個性化は不十分であり、相乗効果を生み出すには至っていない。散在する資源を束ねて有効に活用することが必要である。

5) 少子高齢化への対応 - 福祉、医療分野の充実

新市においても少子高齢化が進展し、福祉や医療分野で新たな需要が生じるものと考えられる。新市の既設福祉施設、医療施設、医科系大学の活用、相互連携を図るとともに、福祉分野では民間事業者の参入を促し、住民に対して手厚いサービスが提供される仕組みを整えることが必要である。

6) 防災対応 - 東海地震への対応

東海地域は約100年から150年の周期でマグニチュード8程度の大地震が起こっている。1854年の安政東海地震以来約150年も大地震が発生していないことから、東海地震に備えた街づくりをすることが必要になっている。

7) 下水道整備の推進 - 生活排水処理の向上

公共下水道、合併浄化槽、農業集落排水等によって汚水処理がなされている割合である生活排水処理率は、県平均値を下回っている。地域に応じた汚水処理の手法を採用しつつ、水系の水質向上を図ることが必要である。

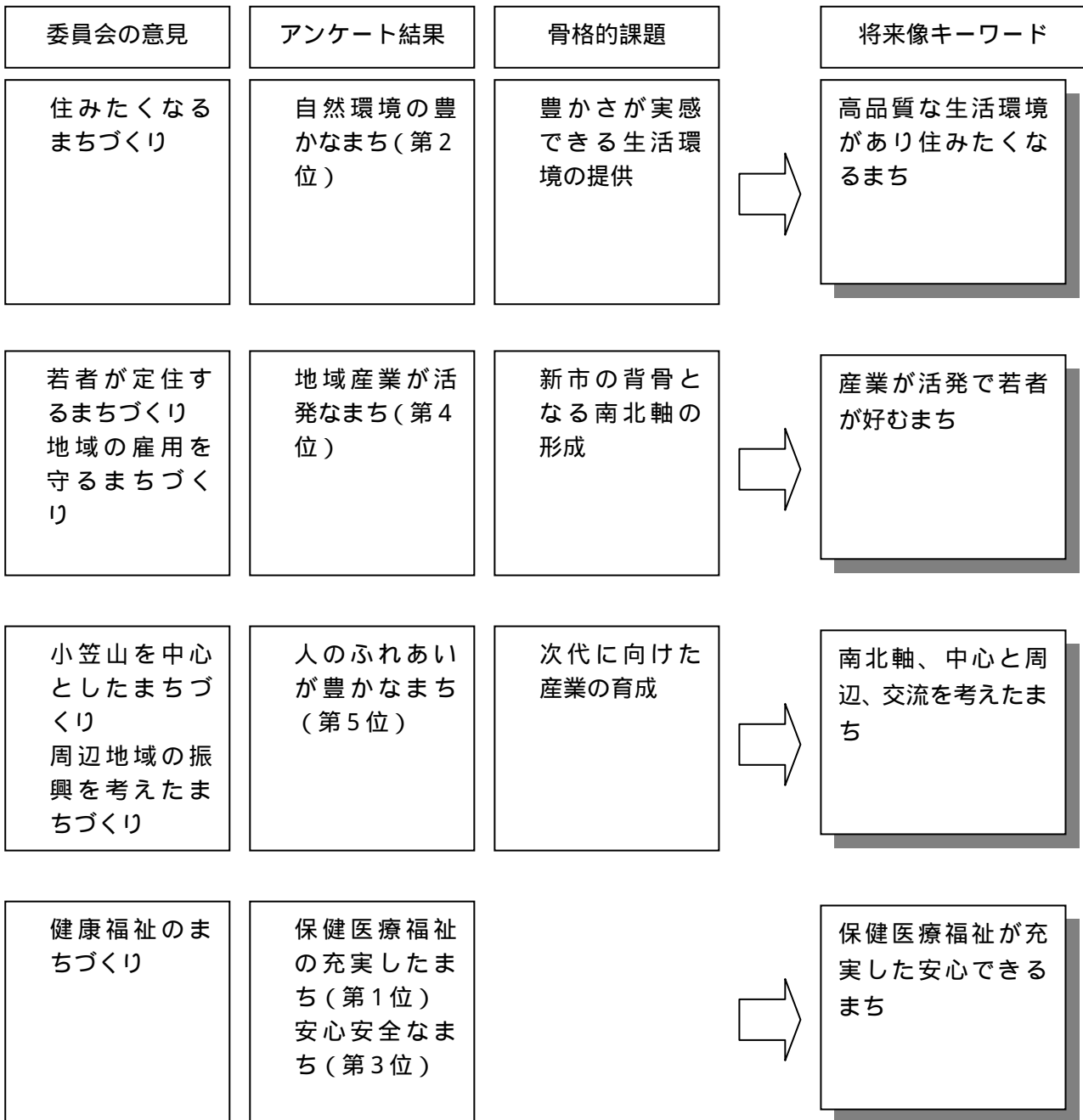
8) 地域特性の活用 - 異なる個性の充実と連携

掛川市の東部、西部、北部、さらには大東町、大須賀町は、それぞれ地域特性が大きく異なる。新市の地域ごとの異なる個性を大切にし、地域相互の連携等によって個性を生かしたまちづくりを進めることが必要である。

(4) 新市のまちづくりの骨子（案）

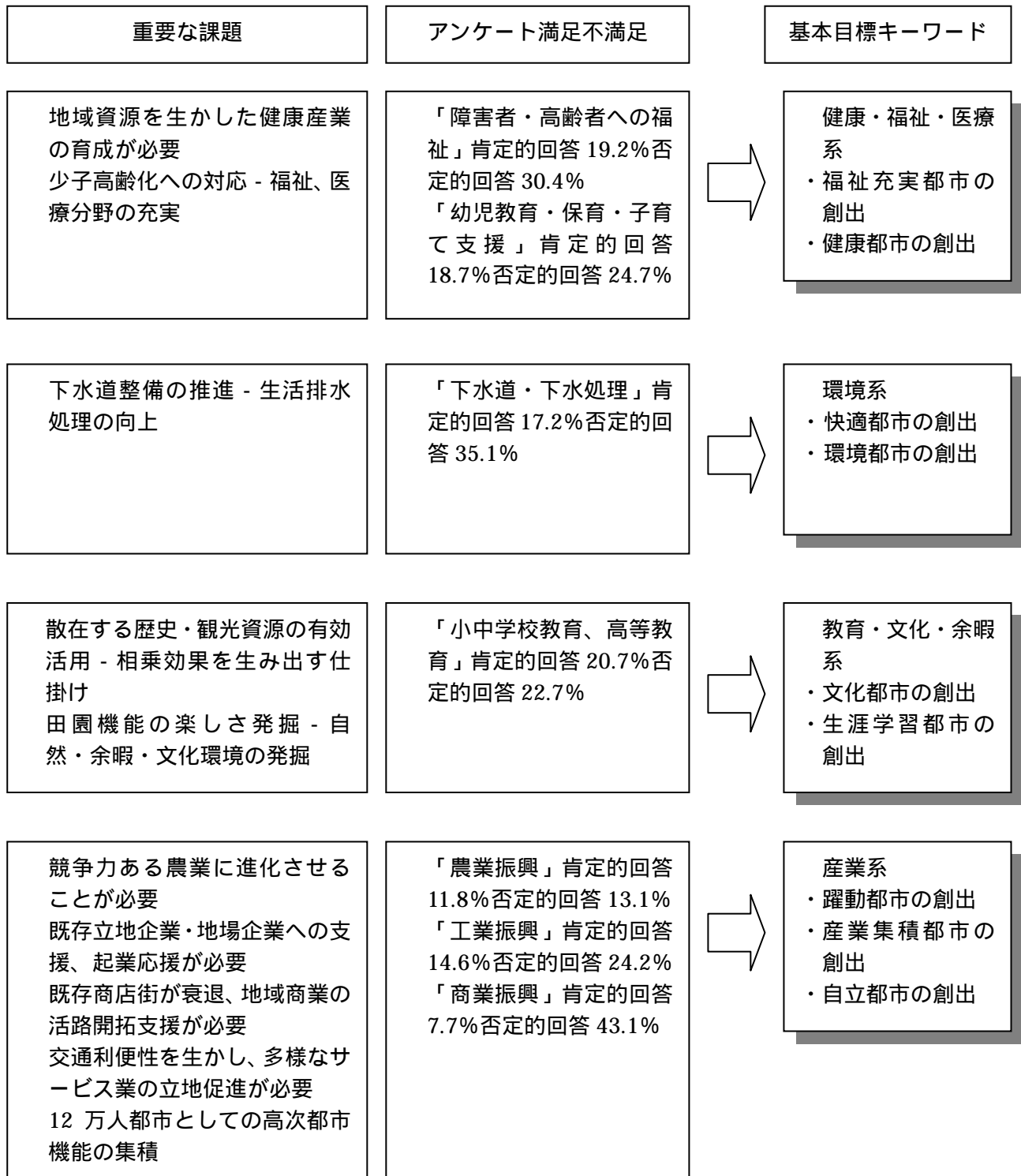
1 新市の将来像のキーワード

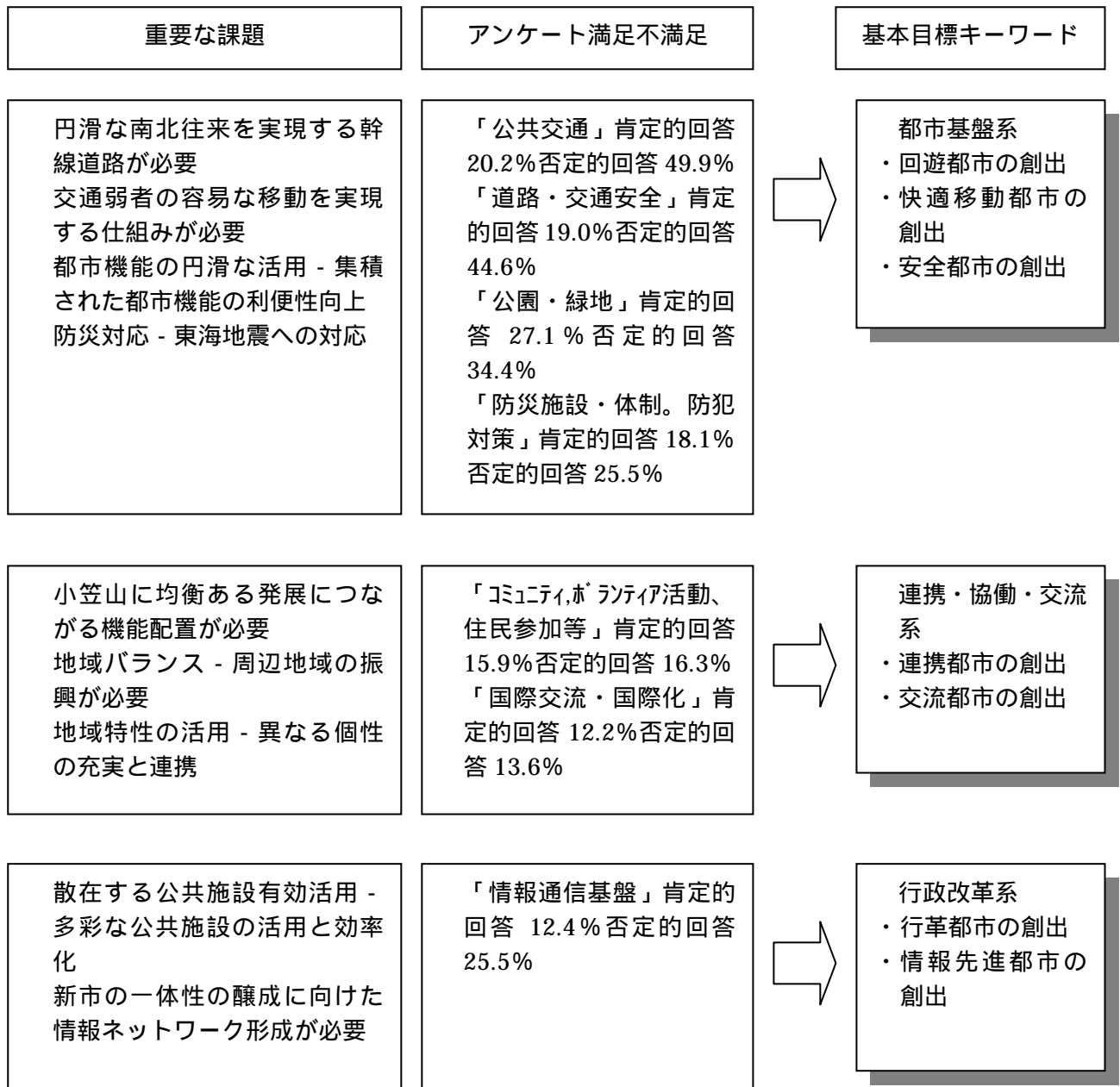
委員会における新市の将来像に関する意見、住民アンケート調査における「新都市の望ましい姿」、新市が抱える骨格的課題を整理し、新市が目指すべき将来像のキーワードを示した。



2 新市の基本目標のキーワード

住民アンケートにおける分野別の満足度合いを尋ねた設問の中で、「やや不満」「不満」の否定的回答が「満足」「ほぼ満足」の肯定的割合を上回り課題となっている分野と、新市の重要課題であると考えられる事項を整理した。新市の課題を整理集約化することで、新市が分野別に目指すべき基本目標のキーワードを示した。





3 新市の施策の方向性

これまでの委員会での意見、住民アンケート調査、1市2町の主要施策を踏まえて、前記の基本目標キーワードに沿って、施策の方向性を整理した。

健康・福祉・医療系
・福祉充実都市の創出
・健康都市の創出

健康・福祉・医療系の施策の方向性

- ・小笠山山麓へのリフレッシュ機能の創出
- ・健康増進に役立つ保養機能の拡充
- ・バリアフリー社会の実現
- ・子育て環境、支援策の充実
- ・高齢者福祉の充実
- ・障害者に対する応援充実
- ・医療機関等との連携による予防医学の充実
- ・医療機関、医療体制の充実

環境系
・快適都市の創出
・環境都市の創出

環境系の施策の方向性

- ・資源循環型社会システムの構築
- ・田園・森林の保全と活用
- ・生活排水対策の充実

教育・文化・余暇系
・文化都市の創出
・生涯学習都市の創出

教育・文化・芸術系の施策の方向性

- ・優れた教育・学習環境の提供
- ・図書館、資料館等の文化機能の充実
- ・スポーツ環境の充実
- ・歴史的資源の再生と活用
- ・祭事等の地域文化の活性化と情報発信

産業系

- ・躍動都市の創出
- ・産業集積都市の創出
- ・自立都市の創出

産業系の施策の方向性

- ・ 農業の担い手の育成
- ・ 時代に対応した農業経営の実現
- ・ 高付加価値農業
- ・ 就業機会の確保に向けた企業誘致
- ・ 立地企業の定着化に向けた支援拡充
- ・ 起業支援制度の創設
- ・ 地域商業の活性化
- ・ 都市型サービス業の集積促進
- ・ 報徳の思想に基づいたビジネス教育拠点の創出

都市基盤系

- ・回遊都市の創出
- ・快適移動都市の創出
- ・安全都市の創出

都市基盤系の施策の方向性

- ・ 南北道路網の整備
- ・ 生活道路網の充実
- ・ 公共交通機関の充実
- ・ 交通不便地域に対する新たな移動方式の創設
- ・ 中心市街地の活性化
- ・ 住民の身近な憩いの場としての公園の充実
- ・ 治水機能の向上
- ・ 防災拠点の確保・防災機能の強化

連携・協働・交流系

- ・連携都市の創出
- ・交流都市の創出

連携・協働・交流系の施策の方向性

- ・ 住民参加システムの構築
- ・ 住民の活動を促す拠点施設の創出
- ・ 均衡ある発展に向けた機能分担
- ・ 国際化の推進
- ・ 新たな情報媒体による地域情報の発信

行政改革系

- ・行革都市の創出
- ・情報先進都市の創出

行政改革系の施策の方向性

- ・ 公共施設を結ぶネットワークの構築
- ・ 情報通信機器を活用した住民サービスの向上
- ・ 電子自治体の実現
- ・ 行政評価システムの構築・行政事務の効率化

住民意向調査結果中間報告

(平成 15 年 7 月 28 日)

本集計結果は、幅広い住民の意見を汲み取り、住民の意向を踏まえた新市建設計画を策定することを目的として平成 15 年 6 月に行った住民意向調査について、地域別にまとめたものである。

アンケート調査の概要

1 実施方法

- ・調査手法 - 郵送配布、郵送回収
- ・調査対象 - 20 歳以上の住民から無作為抽出
- ・対象者数 - 4,500 票 (掛川市 2,300 票、大東町 1,200 票、大須賀町 1,000 票)
- ・記入方法 - 主として選択方式

2 調査期間

- ・調査票の配布 : 平成 15 年 6 月 2 日
- ・調査票の回収 : 平成 15 年 6 月 13 日

3 回収状況

- ・ 1 市 2 町全体 : 1,897 票回収 (回収率 42.16%)
- ・ 掛川市 : 979 票回収 (回収率 42.57%)
- ・ 大東町 : 490 票回収 (回収率 40.83%)
- ・ 大須賀町 : 421 票回収 (回収率 42.10%)
- ・ 地域不詳 : 7 票回収

掛川市・大東町・大須賀町任意合併協議会

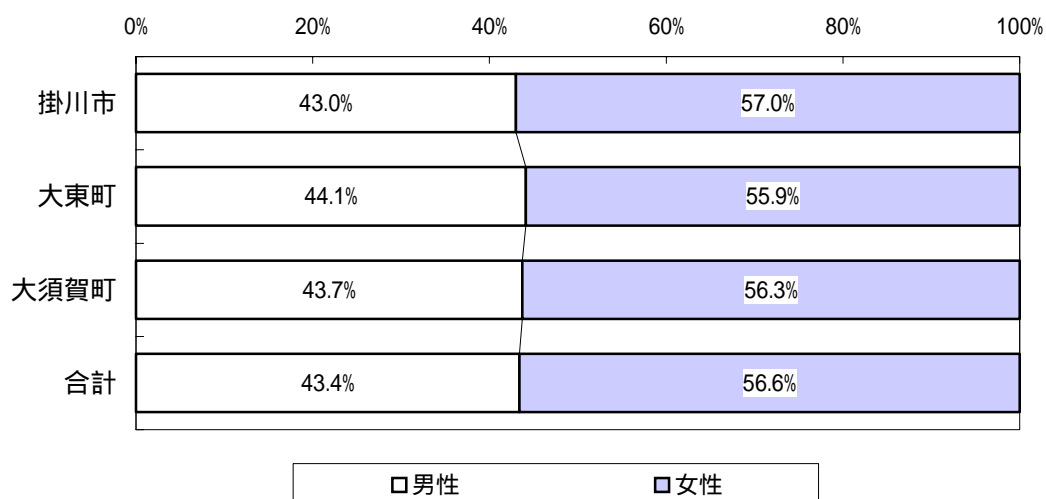
目 次

問1	性 別	1
問2	年 齢	2
問3	職 業	3
問4	住 所 地	4
問5	在 住 年 数	5
問6	1市2町の合併への関心	6
問7	合併に期待する効果	7
問8	合併で心配すること	10
問9	行政サービス、まちづくりへの満足度	13
	(1) 保健・健康づくり、医療体制	13
	(2) 障害者・高齢者への福祉	14
	(3) 幼児教育・保育・子育て支援	15
	(4) 小中学校教育、高等教育	16
	(5) 生涯学習	17
	(6) 芸術・文化・地域の伝統歴史	18
	(7) スポーツ・レクリエーション	19
	(8) ごみ収集・処理、リサイクル	20
	(9) 上水道	21
	(10) 下水道・下水処理	22
	(11) 農業振興	23
	(12) 商業振興	24
	(13) 工業振興	25
	(14) 公共交通	26
	(15) 道路、交通安全	27
	(16) 公園・緑地	28
	(17) 街並み・景観	29
	(18) 防災施設・体制、防犯対策	30
	(19) 情報通信基盤	31
	(20) 国際交流・国際化	32
	(21) コミュニティ、ボランティア活動、住民参加、男女共同参画	33
問10	新都市のまちづくりに活用すべき資源	34
問11	新都市の望ましい姿	37
問12	優先的に取り組むべき施策	39

問1 あなたの性別はどちらですか。（該当する番号に1つ 印をお付けください。）

回答者の男女比は、男性が42.7%、女性が55.6%であった。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

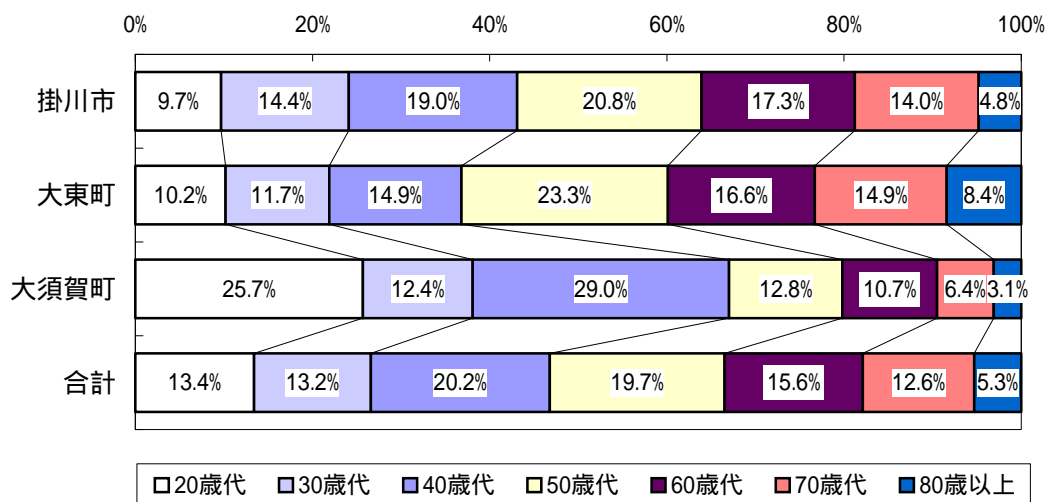
		掛川市	大東町	大須賀町	合計
男性	回答数	416	212	181	809
	割合	43.0%	44.1%	43.7%	43.4%
女性	回答数	552	269	233	1054
	割合	57.0%	55.9%	56.3%	56.6%
合計	回答数	968	481	414	1863
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



問2 あなたの年齢はおいくつですか。（該当する番号に1つ 印をお付けください。）

回答者の年代は、40代が20.1%と最も多く、次いで50代が19.6%と中年世代の回答が約4割を占める。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
20歳代	回答数	95	50	108	253
	割合	9.7%	10.2%	25.7%	13.4%
30歳代	回答数	141	57	52	250
	割合	14.4%	11.7%	12.4%	13.2%
40歳代	回答数	186	73	122	381
	割合	19.0%	14.9%	29.0%	20.2%
50歳代	回答数	203	114	54	371
	割合	20.8%	23.3%	12.8%	19.7%
60歳代	回答数	169	81	45	295
	割合	17.3%	16.6%	10.7%	15.6%
70歳代	回答数	137	73	27	237
	割合	14.0%	14.9%	6.4%	12.6%
80歳以上	回答数	47	41	13	101
	割合	4.8%	8.4%	3.1%	5.3%
合計	回答数	978	489	421	1888
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

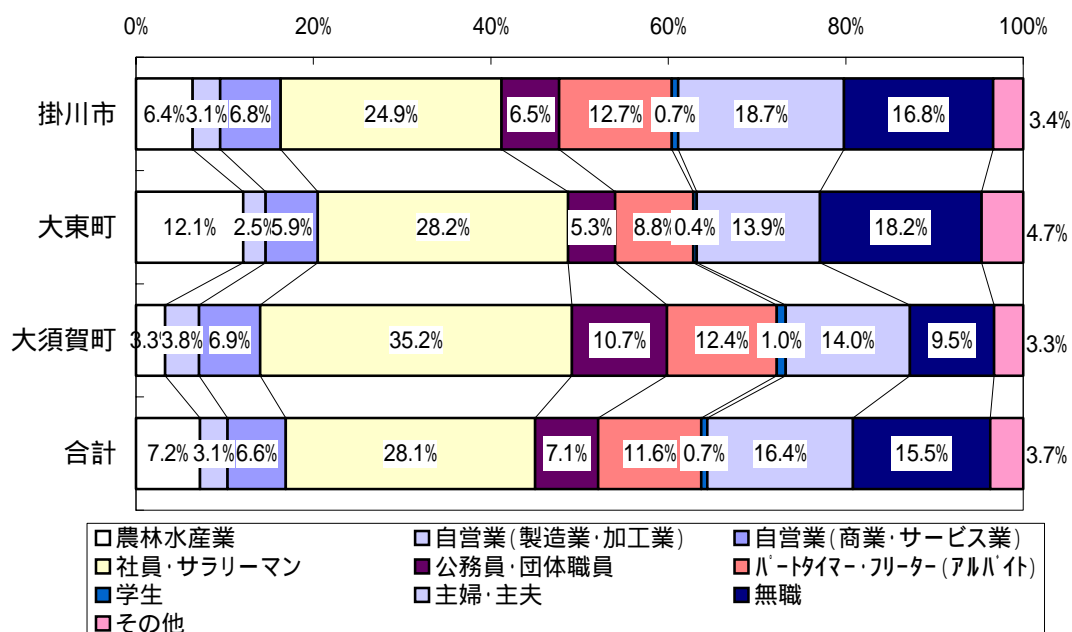


問3 あなたの主なご職業はどれにあてはまりますか。

(該当する番号に1つ 印をお付けください。)

回答者の職業は、「社員・サラリーマン」が最も多く 27.8%、次いで「主婦・主夫」が 16.3%、「無職」が 15.4%であった。(居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。)

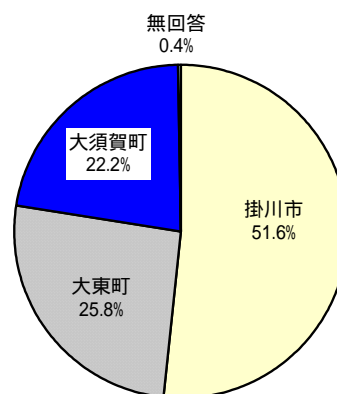
		掛川市	大東町	大須賀町	合計
農林水産業	回答数	62	59	14	135
	割合	6.4%	12.1%	3.3%	7.2%
自営業(製造業・加工業)	回答数	30	12	16	58
	割合	3.1%	2.5%	3.8%	3.1%
自営業(商業・サービス業)	回答数	66	29	29	124
	割合	6.8%	5.9%	6.9%	6.6%
社員・サラリーマン	回答数	242	138	148	528
	割合	24.9%	28.2%	35.2%	28.1%
公務員・団体職員	回答数	63	26	45	134
	割合	6.5%	5.3%	10.7%	7.1%
パートタイマー・フリーター(アルバイト)	回答数	123	43	52	218
	割合	12.7%	8.8%	12.4%	11.6%
学生	回答数	7	2	4	13
	割合	0.7%	0.4%	1.0%	0.7%
主婦・主夫	回答数	182	68	59	309
	割合	18.7%	13.9%	14.0%	16.4%
無職	回答数	163	89	40	292
	割合	16.8%	18.2%	9.5%	15.5%
その他	回答数	33	23	14	70
	割合	3.4%	4.7%	3.3%	3.7%
合計	回答数	971	489	421	1881
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



問4 あなたのお住まいの市町はどちらですか。（該当する番号に1つ 印をお付けください。）

回答者を地域別にみると、「掛川市住民」が51.6%と約半数を占め、次いで大東町が25.8%、大須賀町が22.2%であった。

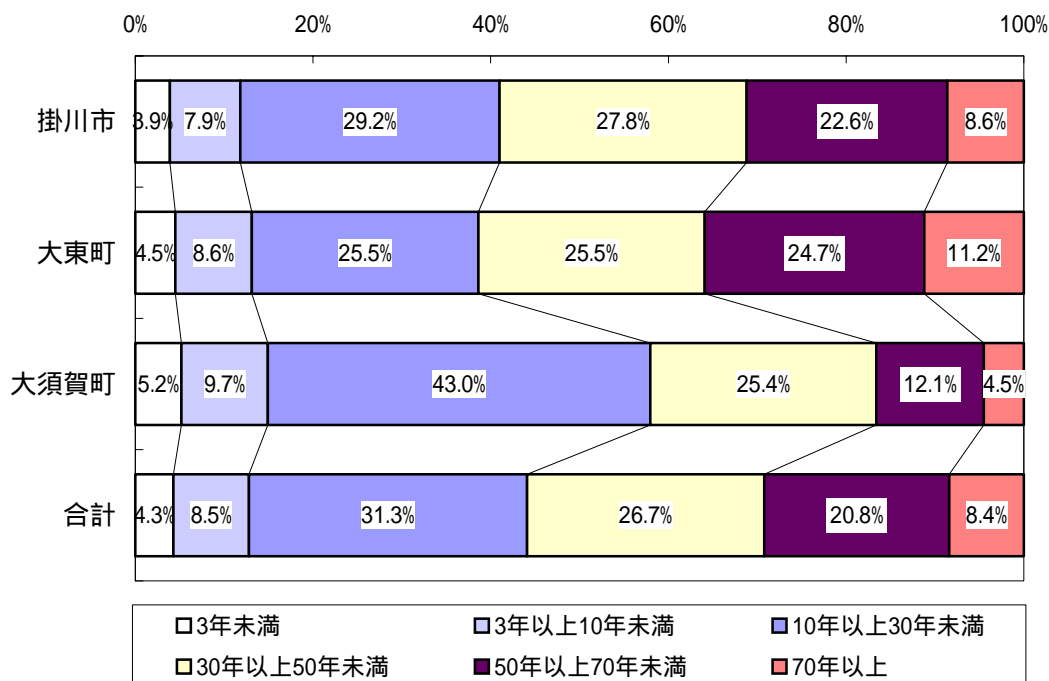
	回答数	割合 (%)
掛川市	979	51.6
大東町	490	25.8
大須賀町	421	22.2
無回答	7	0.4
合計	1,897	100.0



問5 現在のお住まいの市町に通算して何年位住んでいますか。

回答者の居住年数は、「10年以上30年未満」が最も多く31.2%、次いで「30年以上50年未満」が26.5%、「50年以上70年未満」が20.8%であった。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

	掛川市	大東町	大須賀町	合計	
3年未満	回答数	38	22	22	82
	割合	3.9%	4.5%	5.2%	4.3%
3年以上10年未満	回答数	77	42	41	160
	割合	7.9%	8.6%	9.7%	8.5%
10年以上30年未満	回答数	285	125	181	591
	割合	29.2%	25.5%	43.0%	31.3%
30年以上50年未満	回答数	271	125	107	503
	割合	27.8%	25.5%	25.4%	26.7%
50年以上70年未満	回答数	220	121	51	392
	割合	22.6%	24.7%	12.1%	20.8%
70年以上	回答数	84	55	19	158
	割合	8.6%	11.2%	4.5%	8.4%
合計	回答数	975	490	421	1886
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



問6 あなたは1市2町の合併について関心がありますか。

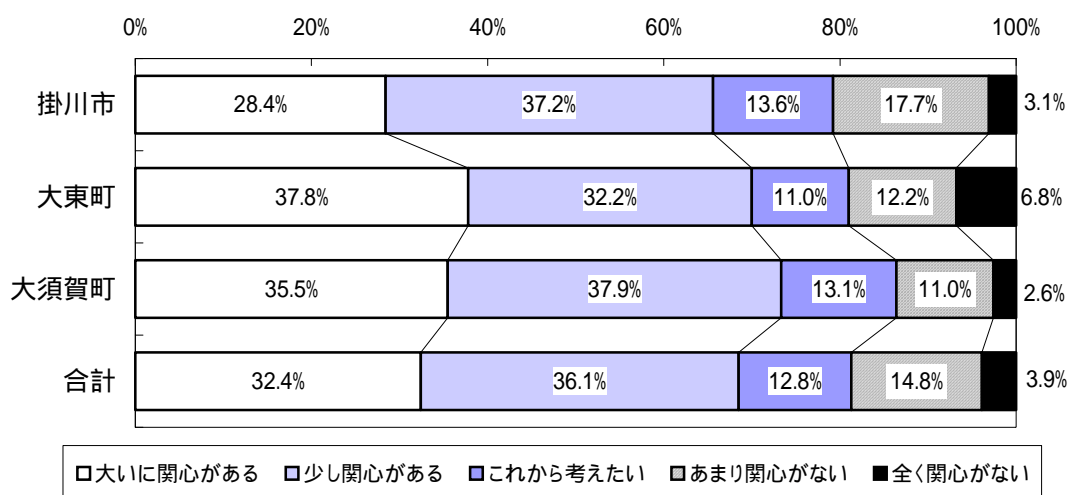
【全体】

1市2町全体では、「少し関心がある」が最も多く35.7%、次いで「大いに関心がある」が32.0%であった。両者で約7割を占め、住民は合併に関心があることがうかがえる。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

「大いに関心がある」「少し関心がある」の両者を合計した回答の割合を地域別に見ると、掛川市が65.6%、大東町が70.0%、大須賀町が73.4%であった。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
大いに関心がある	回答数	275	183	149	607
	割合	28.4%	37.8%	35.5%	32.4%
少し関心がある	回答数	361	156	159	676
	割合	37.2%	32.2%	37.9%	36.1%
これから考えたい	回答数	132	53	55	240
	割合	13.6%	11.0%	13.1%	12.8%
あまり関心がない	回答数	172	59	46	277
	割合	17.7%	12.2%	11.0%	14.8%
全く関心がない	回答数	30	33	11	74
	割合	3.1%	6.8%	2.6%	3.9%
合計	回答数	970	484	420	1874
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



問7「合併」によってどのような効果を期待しますか。（複数回答）

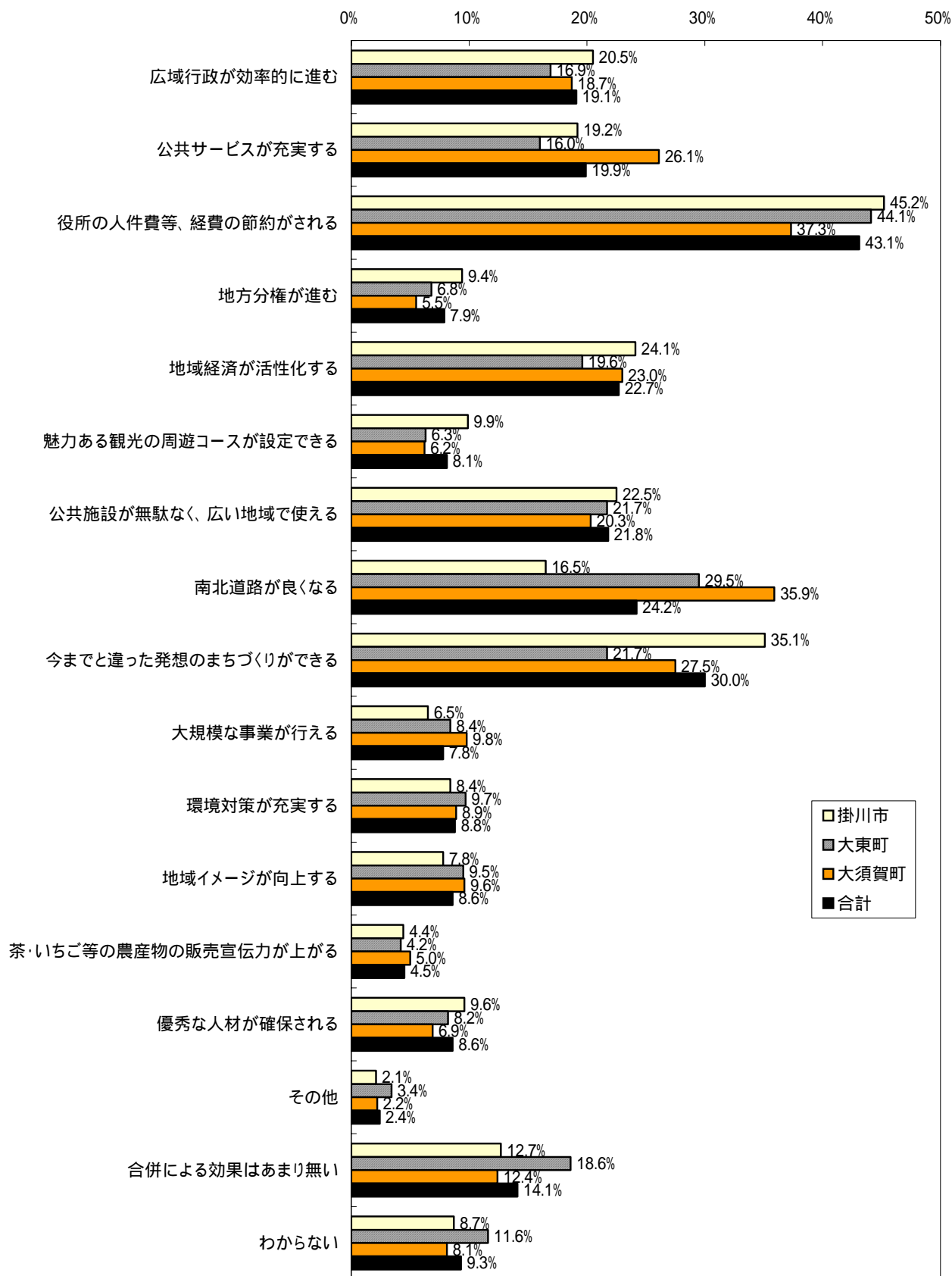
【全体】

合併効果の期待は、「役所の人件費等、経費が節減される」（43.2%）が最も高く、行政の効率化に対する期待がうかがえる。次いで「今までとは違った発想のまちづくりができる」（30.0%）、「南北道路が良くなる」（24.2%）、「地域経済が活性化する」（22.7%）、「公共施設が無駄なく、広い地域で使える」（21.8%）が上位を占める。（居住地に関して無回答者がいるため、次頁以降の図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

「役所の人件費等、経費が節減される」が1市2町とも第1位回答であった。しかし、掛川市の第2位回答は「今までとは違った発想のまちづくりができる」（35.1%）、第3位回答は「地域経済が活性化する」（24.1%）であることに対して、大東町と大須賀町の第2位回答は「南北道路が良くなる」（大東町 29.5%、大須賀町 35.9%）であり、道路整備に対する期待がうかがえる。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
広域行政が効率的に進む	回答数	197	80	78	355
	割合	20.5%	16.9%	18.7%	19.1%
公共サービスが充実する	回答数	185	76	109	370
	割合	19.2%	16.0%	26.1%	19.9%
役所の人件費等、経費の節約がされる	回答数	435	209	156	800
	割合	45.2%	44.1%	37.3%	43.1%
地方分権が進む	回答数	91	32	23	146
	割合	9.4%	6.8%	5.5%	7.9%
地域経済が活性化する	回答数	232	93	96	421
	割合	24.1%	19.6%	23.0%	22.7%
魅力ある観光の周遊コースが設定できる	回答数	95	30	26	151
	割合	9.9%	6.3%	6.2%	8.1%
公共施設が無駄なく、広い地域で使える	回答数	217	103	85	405
	割合	22.5%	21.7%	20.3%	21.8%
南北道路が良くなる	回答数	159	140	150	449
	割合	16.5%	29.5%	35.9%	24.2%
今までと違った発想のまちづくりができる	回答数	338	103	115	556
	割合	35.1%	21.7%	27.5%	30.0%
大規模な事業が行える	回答数	63	40	41	144
	割合	6.5%	8.4%	9.8%	7.8%
環境対策が充実する	回答数	81	46	37	164
	割合	8.4%	9.7%	8.9%	8.8%
地域イメージが向上する	回答数	75	45	40	160
	割合	7.8%	9.5%	9.6%	8.6%
茶・いちご等の農産物の販売宣伝力が上がる	回答数	42	20	21	83
	割合	4.4%	4.2%	5.0%	4.5%
優秀な人材が確保される	回答数	92	39	29	160
	割合	9.6%	8.2%	6.9%	8.6%
その他	回答数	20	16	9	45
	割合	2.1%	3.4%	2.2%	2.4%
合併による効果はあまり無い	回答数	122	88	52	262
	割合	12.7%	18.6%	12.4%	14.1%
わからない	回答数	84	55	34	173
	割合	8.7%	11.6%	8.1%	9.3%
合計	回答数	2,528	1,215	1,101	4,844
	回答者数	963	474	418	1,855



問8 1市2町が合併するとしたらどういったことを心配しますか。（複数回答）

【全体】

合併に対する心配は、「税金や使用料などの住民負担が増えないか」（53.4%）が最も高く、次いで「中心部と周辺部に格差が生じないか」（40.2%）、「新たな整備にお金がかからないか」（34.5%）、「きめ細かい行政サービスができなくなるか」（31.3%）、「役所が遠くなり不便にならないか」（23.6%）が上位を占める。経済的側面と行政サービス後退に対する心配がうかがえる。（居住地に関して無回答者がいるため、次頁以降の図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

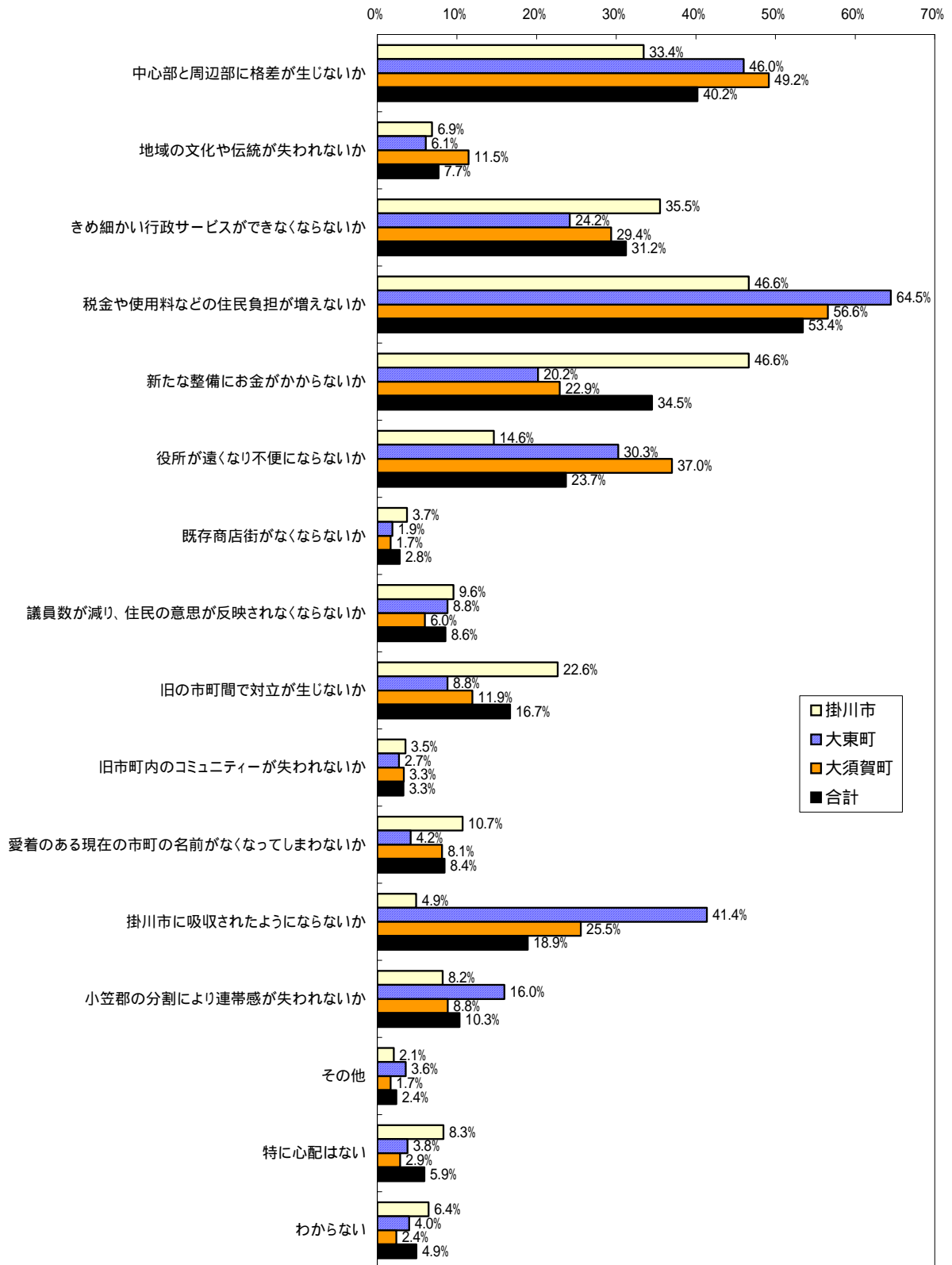
【地域別】

掛川市では「住民負担が増えないか」（46.6%）「新たな整備にお金がかからないか」（46.6%）「きめ細かい行政サービスができなくなるか」（35.5%）と、経済的側面と行政サービス後退に関する心配が上位を占める。

大東町では「住民負担が増えないか」（64.5%）「中心部と周辺部に格差が生じないか」（46.0%）「掛川市に吸収されたようにならないか」（41.4%）と、経済的側面に加えて地域格差や吸収に対する心配が上位を占める。

大須賀町では「住民負担が増えないか」（56.6%）「中心部と周辺部に格差が生じないか」（49.2%）「役所が遠くなり不便にならないか」（37.0%）と、経済的側面に加えて地域格差や距離に関する心配が上位を占める。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
中心部と周辺部に格差が生じないか	回答数	322	219	206	747
	割合	33.4%	46.0%	49.2%	40.2%
地域の文化や伝統が失われないか	回答数	66	29	48	143
	割合	6.9%	6.1%	11.5%	7.7%
きめ細かい行政サービスができなくなるか	回答数	342	115	123	580
	割合	35.5%	24.2%	29.4%	31.2%
税金や使用料などの住民負担が増えないか	回答数	449	307	237	993
	割合	46.6%	64.5%	56.6%	53.4%
新たな整備にお金がかからないか	回答数	449	96	96	641
	割合	46.6%	20.2%	22.9%	34.5%
役所が遠くなり不便にならないか	回答数	141	144	155	440
	割合	14.6%	30.3%	37.0%	23.7%
既存商店街がなくなるか	回答数	36	9	7	52
	割合	3.7%	1.9%	1.7%	2.8%
議員数が減り、住民の意思が反映されなくなるか	回答数	92	42	25	159
	割合	9.6%	8.8%	6.0%	8.6%
旧の市町間で対立が生じないか	回答数	218	42	50	310
	割合	22.6%	8.8%	11.9%	16.7%
旧市町内のコミュニティーが失われないか	回答数	34	13	14	61
	割合	3.5%	2.7%	3.3%	3.3%
愛着のある現在の市町の名前がなくなってしまうか	回答数	103	20	34	157
	割合	10.7%	4.2%	8.1%	8.4%
掛川市に吸収されたようにならないか	回答数	47	197	107	351
	割合	4.9%	41.4%	25.5%	18.9%
小笠郡の分割により連帯感が失われないか	回答数	79	76	37	192
	割合	8.2%	16.0%	8.8%	10.3%
その他	回答数	20	17	7	44
	割合	2.1%	3.6%	1.7%	2.4%
特に心配はない	回答数	80	18	12	110
	割合	8.3%	3.8%	2.9%	5.9%
わからない	回答数	62	19	10	91
	割合	6.4%	4.0%	2.4%	4.9%
合計	回答数	2,540	1,363	1,168	5,071
	回答者数	963	476	419	1,858



問9 現状の行政サービスやまちづくりへの満足度について、どのように感じていますか。

9 - 1 保健・健康づくり、医療体制

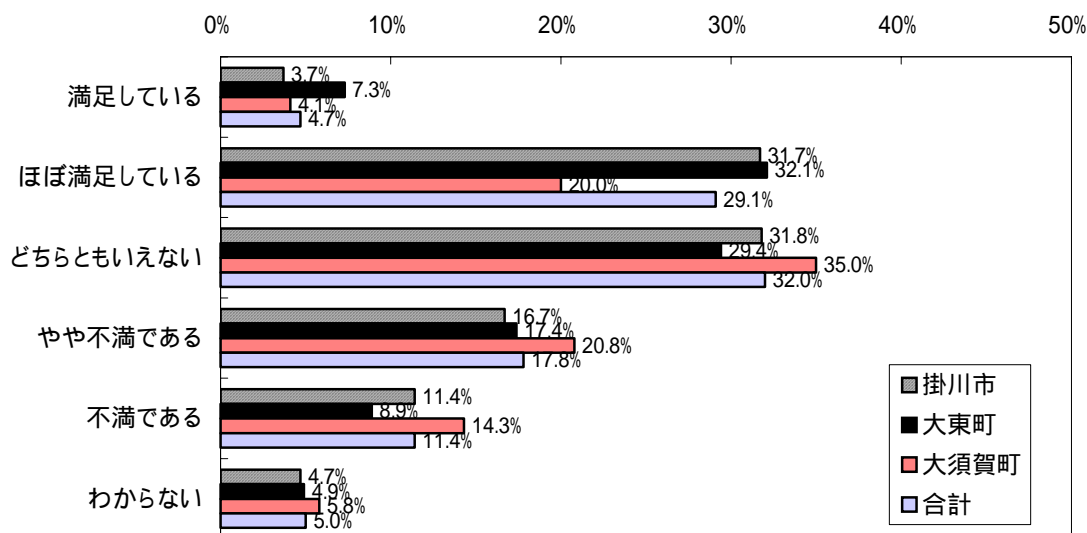
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は32.2%、「やや不満」「不満」の否定的回答は27.9%を占める。肯定的回答が上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が35.4%、否定的回答が28.4%である。また大東町では肯定的回答が39.4%、否定的回答が26.3%である。しかし、大須賀町では肯定的回答が24.1%、否定的回答が35.1%と否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	35	33	17	85
	割合	3.7%	7.3%	4.1%	4.7%
ほぼ満足している	回答数	299	144	83	526
	割合	31.7%	32.1%	20.0%	29.1%
どちらともいえない	回答数	300	132	145	577
	割合	31.8%	29.4%	35.0%	32.0%
やや不満である	回答数	157	78	86	321
	割合	16.7%	17.4%	20.8%	17.8%
不満である	回答数	107	40	59	206
	割合	11.4%	8.9%	14.3%	11.4%
わからない	回答数	44	22	24	90
	割合	4.7%	4.9%	5.8%	5.0%
合計	回答数	942	449	414	1805
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 2 障害者・高齢者への福祉

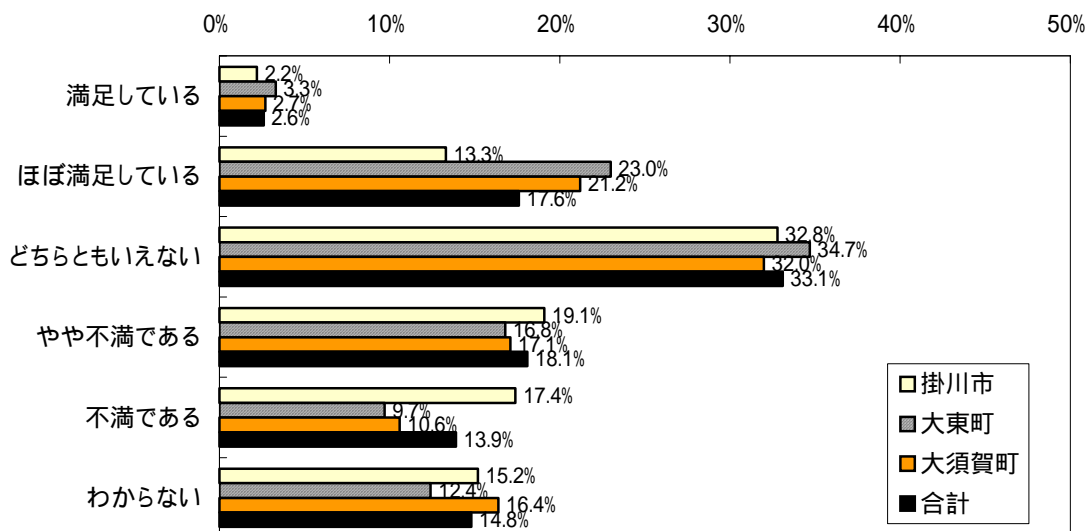
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は19.2%、「やや不満」「不満」の否定的回答は30.4%を占める。否定的回答が肯定的回答を上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が15.5%、否定的回答が36.5%である。また大東町では肯定的回答が26.3%、否定的回答が26.5%、大須賀町では肯定的回答が23.9%、否定的回答が27.7%である。大東町では肯定的回答と否定的回答が拮抗するが、掛川市と大須賀町では否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	21	15	11	47
	割合	2.2%	3.3%	2.7%	2.6%
ほぼ満足している	回答数	125	104	88	317
	割合	13.3%	23.0%	21.2%	17.6%
どちらともいえない	回答数	308	157	133	598
	割合	32.8%	34.7%	32.0%	33.1%
やや不満である	回答数	179	76	71	326
	割合	19.1%	16.8%	17.1%	18.1%
不満である	回答数	163	44	44	251
	割合	17.4%	9.7%	10.6%	13.9%
わからない	回答数	143	56	68	267
	割合	15.2%	12.4%	16.4%	14.8%
合計	回答数	939	452	415	1806
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 3 幼児教育・保育・子育て支援

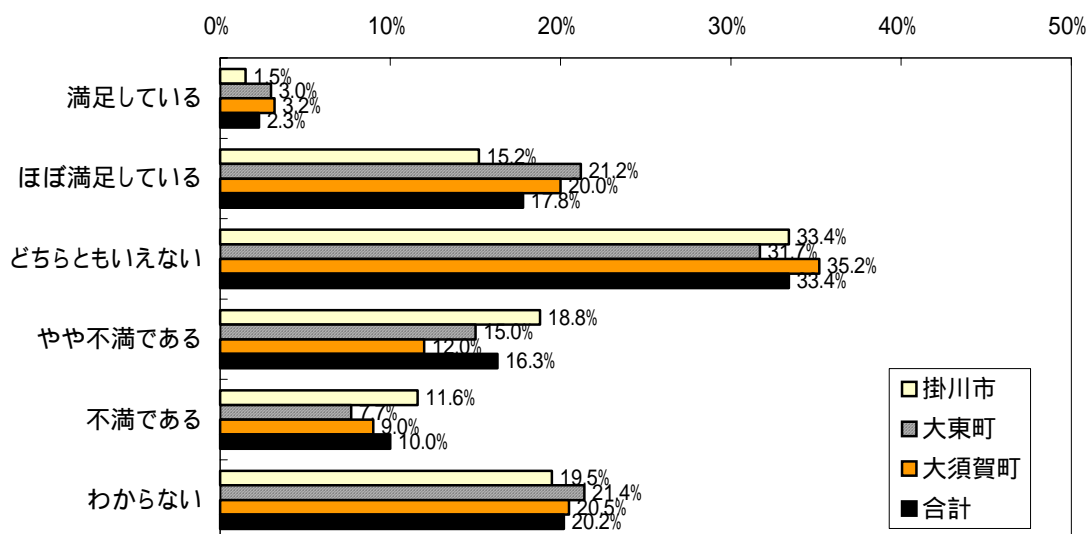
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は18.7%、「やや不満」「不満」の否定的回答は24.7%を占める。否定的回答が肯定的回答を上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が16.7%、否定的回答が30.4%である。一方、大東町では肯定的回答が24.2%、否定的回答が22.7%、大須賀町では肯定的回答が23.2%、否定的回答が21.0%である。掛川市では否定的回答が上回るが、大東町と大須賀町では肯定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	14	13	13	40
	割合	1.5%	3.0%	3.2%	2.3%
ほぼ満足している	回答数	140	93	82	315
	割合	15.2%	21.2%	20.0%	17.8%
どちらともいえない	回答数	309	139	144	592
	割合	33.4%	31.7%	35.2%	33.4%
やや不満である	回答数	174	66	49	289
	割合	18.8%	15.0%	12.0%	16.3%
不満である	回答数	107	34	37	178
	割合	11.6%	7.7%	9.0%	10.0%
わからない	回答数	180	94	84	358
	割合	19.5%	21.4%	20.5%	20.2%
合計	回答数	924	439	409	1772
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 4 小中学校教育、高等教育

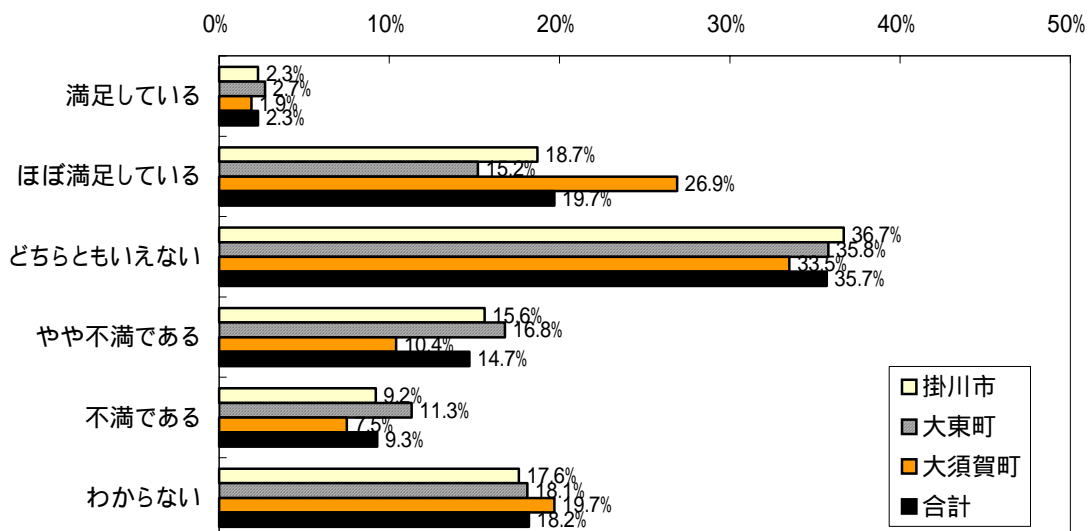
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は20.7%、「やや不満」「不満」の否定的回答は22.7%を占める。肯定的回答と否定的回答がほぼ拮抗している。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が21.0%、否定的回答が24.8%である。大東町では肯定的回答が17.9%、否定的回答が28.1%、大須賀町では肯定的回答が28.8%、否定的回答が17.9%である。掛川市と大東町では否定的回答が上回るが、大須賀町では肯定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	21	12	8	41
	割合	2.3%	2.7%	1.9%	2.3%
ほぼ満足している	回答数	173	67	111	351
	割合	18.7%	15.2%	26.9%	19.7%
どちらともいえない	回答数	340	158	138	636
	割合	36.7%	35.8%	33.5%	35.7%
やや不満である	回答数	145	74	43	262
	割合	15.6%	16.8%	10.4%	14.7%
不満である	回答数	85	50	31	166
	割合	9.2%	11.3%	7.5%	9.3%
わからない	回答数	163	80	81	324
	割合	17.6%	18.1%	19.7%	18.2%
合計	回答数	927	441	412	1780
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 5 生涯学習

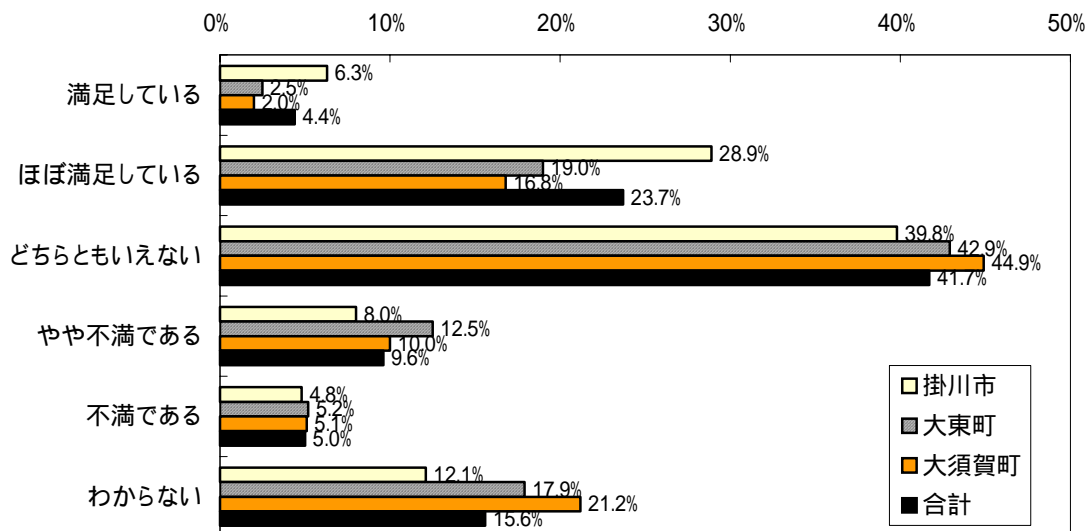
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は26.3%、「やや不満」「不満」の否定的回答は13.7%を占める。肯定的回答が否定的回答を上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が35.2%、否定的回答が12.8%である。大東町では肯定的回答が21.5%、否定的回答が17.7%、大須賀町では肯定的回答が18.8%、否定的回答が15.1%である。掛川市、大東町、大須賀町とも肯定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	59	11	8	78
	割合	6.3%	2.5%	2.0%	4.4%
ほぼ満足している	回答数	269	84	69	422
	割合	28.9%	19.0%	16.8%	23.7%
どちらともいえない	回答数	371	189	184	744
	割合	39.8%	42.9%	44.9%	41.7%
やや不満である	回答数	75	55	41	171
	割合	8.0%	12.5%	10.0%	9.6%
不満である	回答数	45	23	21	89
	割合	4.8%	5.2%	5.1%	5.0%
わからない	回答数	113	79	87	279
	割合	12.1%	17.9%	21.2%	15.6%
合計	回答数	932	441	410	1783
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 6 文化・芸術・地域の伝統歴史

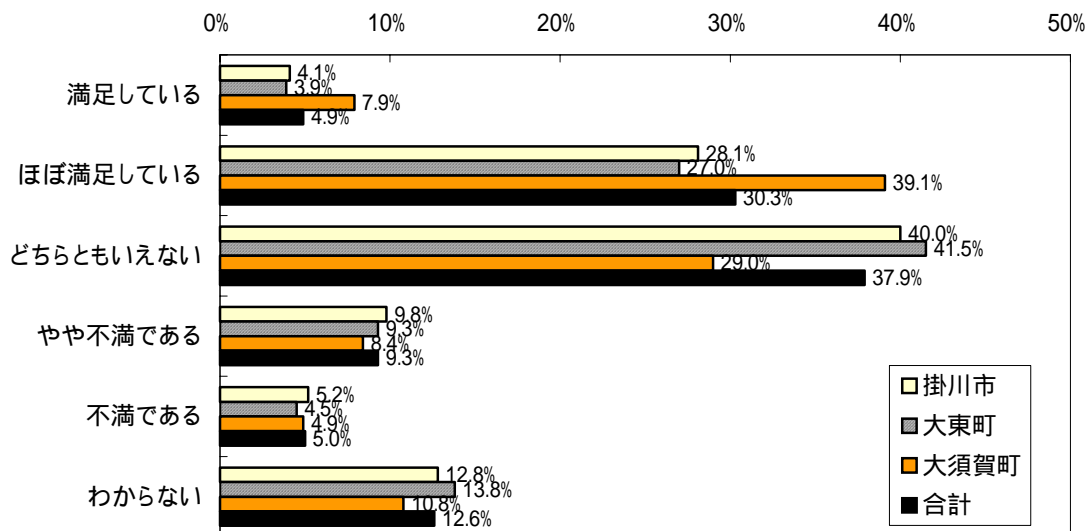
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は33.1%、「やや不満」「不満」の否定的回答は13.4%を占める。他の項目に比べて、肯定的回答が否定的回答を大きく上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が32.2%、否定的回答が15.0%である。大東町では肯定的回答が30.9%、否定的回答が13.8%、大須賀町では肯定的回答が47.0%、否定的回答が13.3%である。掛川市、大東町、大須賀町とも肯定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	38	17	32	87
	割合	4.1%	3.9%	7.9%	4.9%
ほぼ満足している	回答数	261	119	159	539
	割合	28.1%	27.0%	39.1%	30.3%
どちらともいえない	回答数	372	183	118	673
	割合	40.0%	41.5%	29.0%	37.9%
やや不満である	回答数	91	41	34	166
	割合	9.8%	9.3%	8.4%	9.3%
不満である	回答数	48	20	20	88
	割合	5.2%	4.5%	4.9%	5.0%
わからない	回答数	119	61	44	224
	割合	12.8%	13.8%	10.8%	12.6%
合計	回答数	929	441	407	1777
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 7 スポーツ・レクリエーション

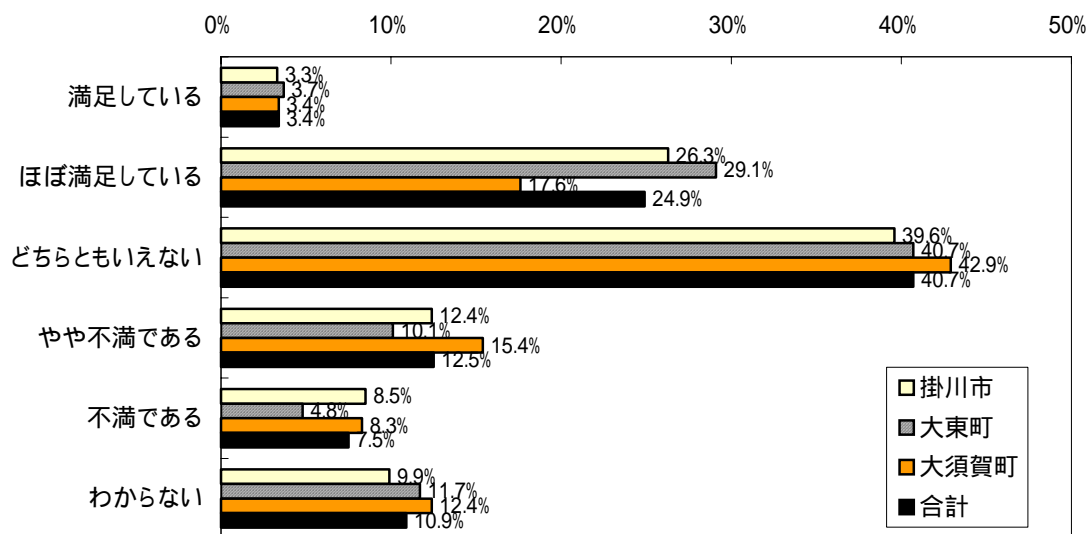
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は26.6%、「やや不満」「不満」の否定的回答は18.8%を占める。肯定的回答が否定的回答を上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が29.6%、否定的回答が20.9%である。大東町では肯定的回答が32.8%、否定的回答が14.9%、大須賀町では肯定的回答が21.0%、否定的回答が23.7%である。掛川市と大東町では肯定的回答が上回るが、大須賀町では否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	31	16	14	61
	割合	3.3%	3.7%	3.4%	3.4%
ほぼ満足している	回答数	244	127	72	443
	割合	26.3%	29.1%	17.6%	24.9%
どちらともいえない	回答数	368	178	176	722
	割合	39.6%	40.7%	42.9%	40.7%
やや不満である	回答数	115	44	63	222
	割合	12.4%	10.1%	15.4%	12.5%
不満である	回答数	79	21	34	134
	割合	8.5%	4.8%	8.3%	7.5%
わからない	回答数	92	51	51	194
	割合	9.9%	11.7%	12.4%	10.9%
合計	回答数	929	437	410	1776
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 8 ごみ収集・処理、リサイクル

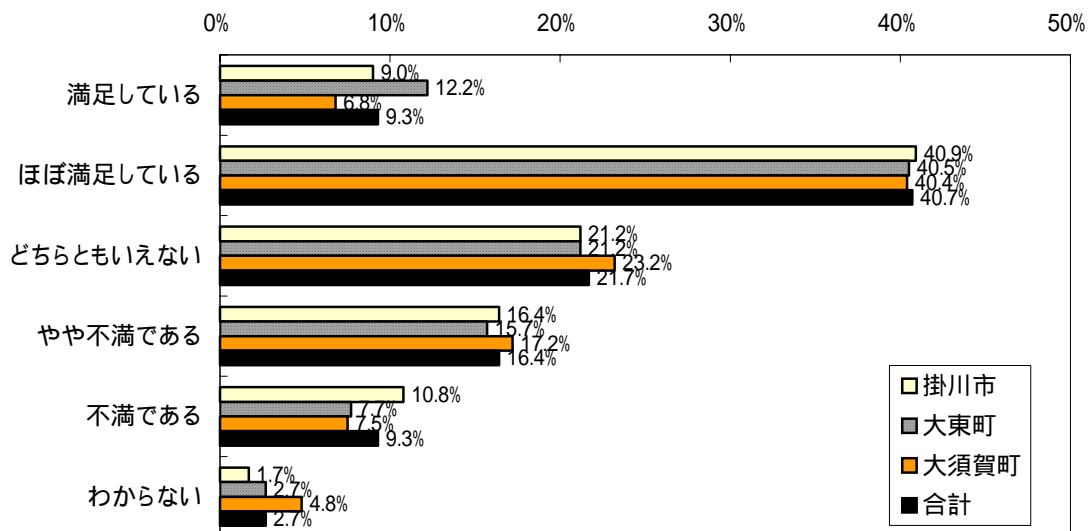
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は47.8%、「やや不満」「不満」の否定的回答は24.6%を占める。他の項目に比べて、肯定的回答割合が高く約5割を占める。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が49.9%、否定的回答が27.2%である。大東町では肯定的回答が52.7%、否定的回答が23.4%、大須賀町では肯定的回答が47.2%、否定的回答が24.7%である。掛川市、大東町、大須賀町とも肯定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	85	55	28	168
	割合	9.0%	12.2%	6.8%	9.3%
ほぼ満足している	回答数	387	183	167	737
	割合	40.9%	40.5%	40.4%	40.7%
どちらともいえない	回答数	201	96	96	393
	割合	21.2%	21.2%	23.2%	21.7%
やや不満である	回答数	155	71	71	297
	割合	16.4%	15.7%	17.2%	16.4%
不満である	回答数	102	35	31	168
	割合	10.8%	7.7%	7.5%	9.3%
わからない	回答数	16	12	20	48
	割合	1.7%	2.7%	4.8%	2.7%
合計	回答数	946	452	413	1811
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 9 上水道

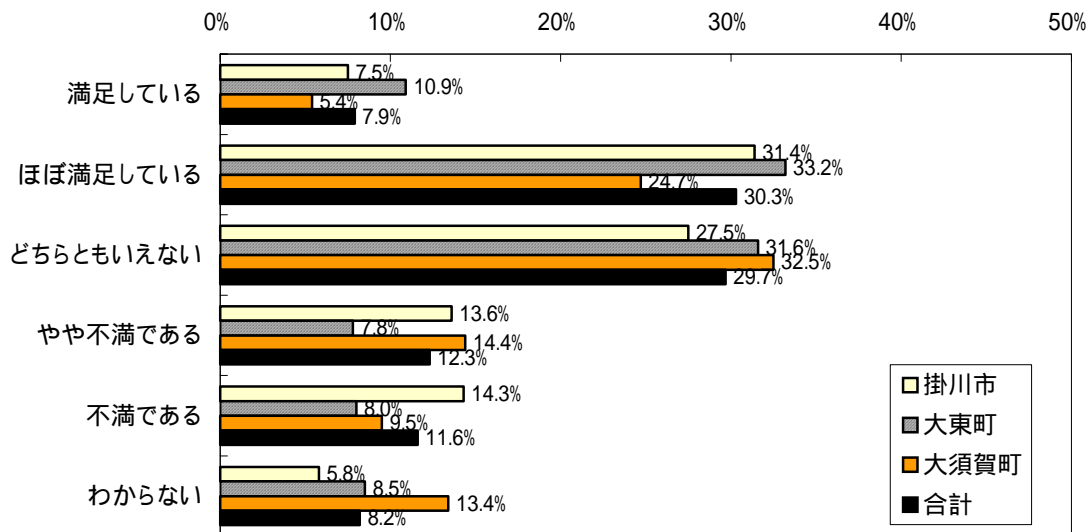
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は36.1%、「やや不満」「不満」の否定的回答は22.7%を占める。肯定的回答が否定的回答を上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が38.9%、否定的回答が27.9%である。大東町では肯定的回答が44.1%、否定的回答が15.8%、大須賀町では肯定的回答が30.1%、否定的回答が23.9%である。掛川市、大東町、大須賀町とも肯定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	70	49	22	141
	割合	7.5%	10.9%	5.4%	7.9%
ほぼ満足している	回答数	294	149	101	544
	割合	31.4%	33.2%	24.7%	30.3%
どちらともいえない	回答数	257	142	133	532
	割合	27.5%	31.6%	32.5%	29.7%
やや不満である	回答数	127	35	59	221
	割合	13.6%	7.8%	14.4%	12.3%
不満である	回答数	134	36	39	209
	割合	14.3%	8.0%	9.5%	11.6%
わからない	回答数	54	38	55	147
	割合	5.8%	8.5%	13.4%	8.2%
合計	回答数	936	449	409	1794
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 10 下水道・下水処理

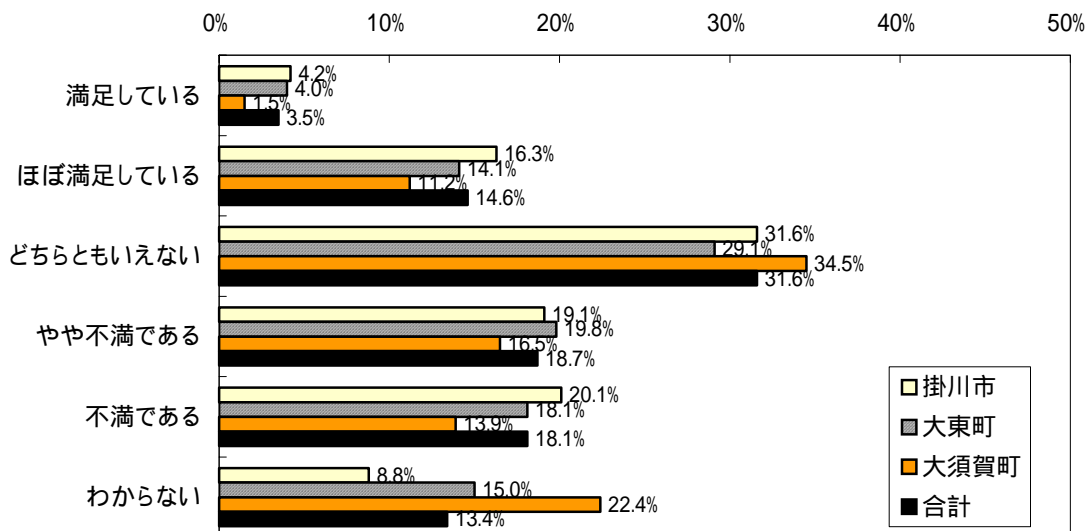
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は17.2%、「やや不満」「不満」の否定的回答は35.1%を占める。他の項目に比べて、否定的回答が肯定的回答を大きく上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が20.5%、否定的回答が39.2%である。大東町では肯定的回答が18.1%、否定的回答が37.9%、大須賀町では肯定的回答が12.7%、否定的回答が30.4%である。掛川市、大東町、大須賀町とも否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	39	18	6	63
	割合	4.2%	4.0%	1.5%	3.5%
ほぼ満足している	回答数	153	64	46	263
	割合	16.3%	14.1%	11.2%	14.6%
どちらともいえない	回答数	296	132	142	570
	割合	31.6%	29.1%	34.5%	31.6%
やや不満である	回答数	179	90	68	337
	割合	19.1%	19.8%	16.5%	18.7%
不満である	回答数	188	82	57	327
	割合	20.1%	18.1%	13.9%	18.1%
わからない	回答数	82	68	92	242
	割合	8.8%	15.0%	22.4%	13.4%
合計	回答数	937	454	411	1802
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 1 1 農業振興

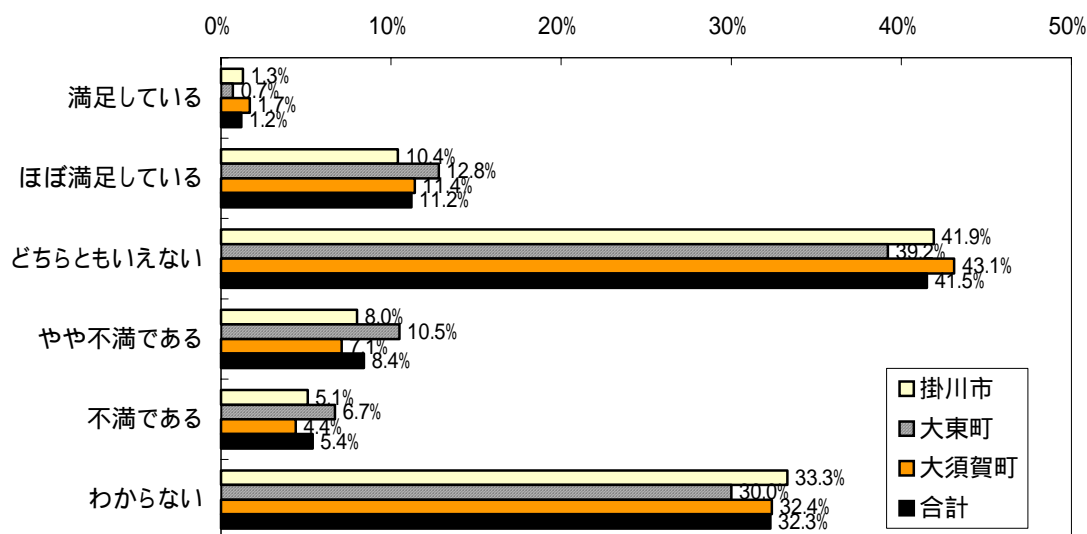
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は11.8%、「やや不満」「不満」の否定的回答は13.1%を占める。肯定的回答と否定的回答がほぼ拮抗する。「どちらともいえない」「わからない」が約7割を占める。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が11.7%、否定的回答が13.1%である。大東町では肯定的回答が13.5%、否定的回答が17.2%、大須賀町では肯定的回答が13.1%、否定的回答が11.5%である。掛川市、大東町では否定的回答が上回り、大須賀町では肯定的回答が上回る。しかし、1市2町とも「どちらともいえない」「わからない」が約7割を占める。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	12	3	7	22
	割合	1.3%	0.7%	1.7%	1.2%
ほぼ満足している	回答数	97	57	47	201
	割合	10.4%	12.8%	11.4%	11.2%
どちらともいえない	回答数	392	175	177	744
	割合	41.9%	39.2%	43.1%	41.5%
やや不満である	回答数	75	47	29	151
	割合	8.0%	10.5%	7.1%	8.4%
不満である	回答数	48	30	18	96
	割合	5.1%	6.7%	4.4%	5.4%
わからない	回答数	311	134	133	578
	割合	33.3%	30.0%	32.4%	32.3%
合計	回答数	935	446	411	1792
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 1 2 商業振興（中心市街地・地域商業、観光）

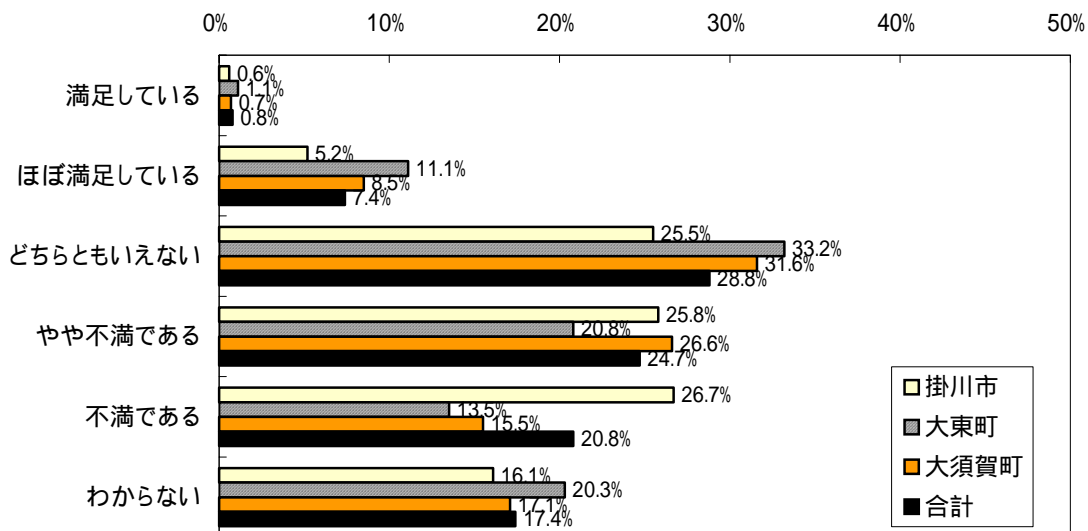
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は7.7%、「やや不満」「不満」の否定的回答は43.1%を占める。他の項目に比べて、否定的回答が肯定的回答を大きく上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が5.8%、否定的回答が52.5%である。大東町では肯定的回答が12.2%、否定的回答が34.3%、大須賀町では肯定的回答が9.2%、否定的回答が42.1%である。掛川市、大東町、大須賀町とも否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	6	5	3	14
	割合	0.6%	1.1%	0.7%	0.8%
ほぼ満足している	回答数	49	49	35	133
	割合	5.2%	11.1%	8.5%	7.4%
どちらともいえない	回答数	239	147	131	517
	割合	25.5%	33.2%	31.6%	28.8%
やや不満である	回答数	242	92	110	444
	割合	25.8%	20.8%	26.6%	24.7%
不満である	回答数	250	60	64	374
	割合	26.7%	13.5%	15.5%	20.8%
わからない	回答数	151	90	71	312
	割合	16.1%	20.3%	17.1%	17.4%
合計	回答数	937	443	414	1794
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 1 3 工業振興（基盤整備、工場誘致）

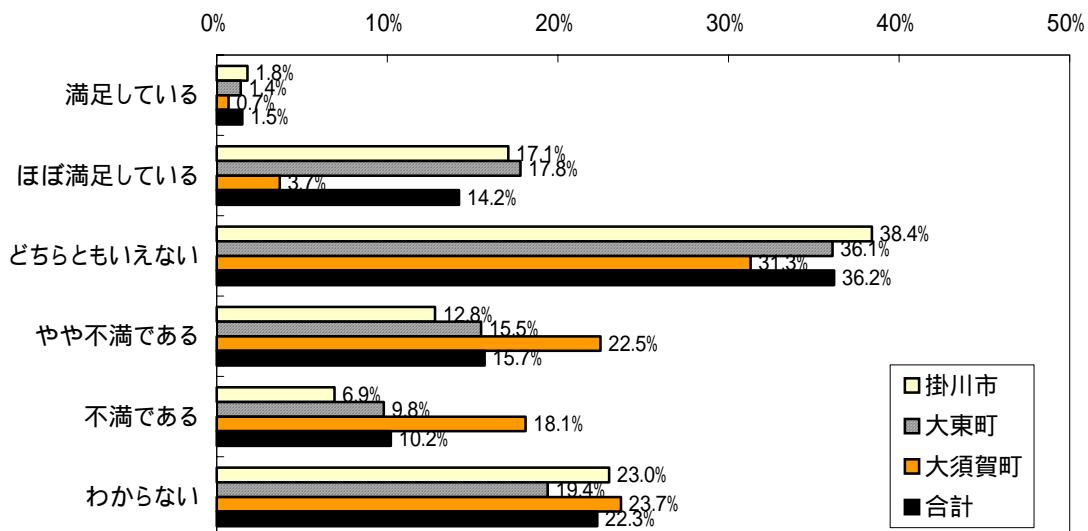
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は14.6%、「やや不満」「不満」の否定的回答は24.2%を占める。否定的回答が肯定的回答を上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が18.9%、否定的回答が19.7%である。大東町では肯定的回答が19.2%、否定的回答が25.3%、大須賀町では肯定的回答が4.4%、否定的回答が40.6%である。掛川市、大東町、大須賀町とも否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	17	6	3	26
	割合	1.8%	1.4%	0.7%	1.5%
ほぼ満足している	回答数	158	78	15	251
	割合	17.1%	17.8%	3.7%	14.2%
どちらともいえない	回答数	355	158	128	641
	割合	38.4%	36.1%	31.3%	36.2%
やや不満である	回答数	118	68	92	278
	割合	12.8%	15.5%	22.5%	15.7%
不満である	回答数	64	43	74	181
	割合	6.9%	9.8%	18.1%	10.2%
わからない	回答数	213	85	97	395
	割合	23.0%	19.4%	23.7%	22.3%
合計	回答数	925	438	409	1772
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 1 4 公共交通（バス、鉄道等）

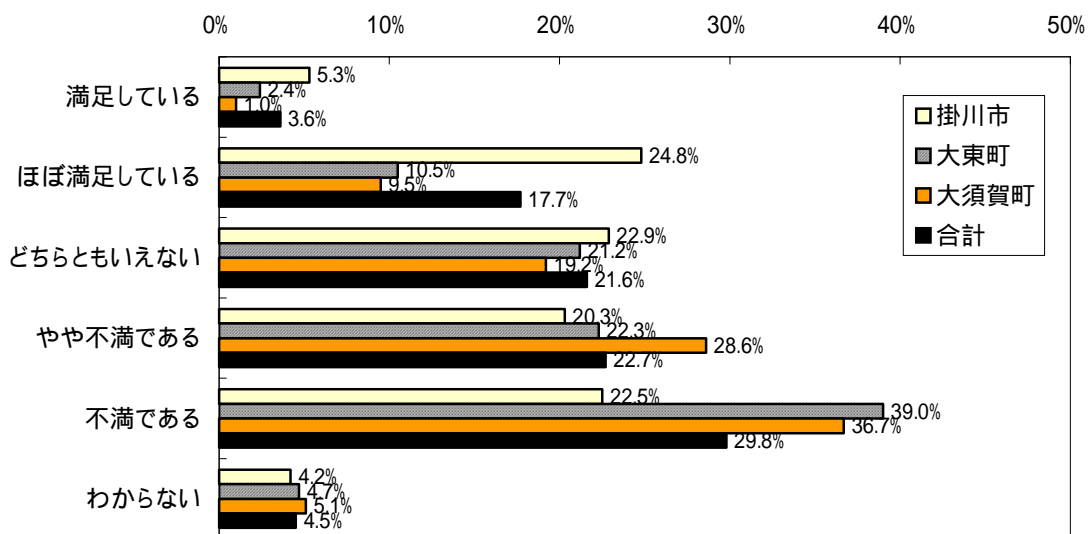
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は20.2%、「やや不満」「不満」の否定的回答は49.9%を占める。他の項目に比べて、否定的回答が最も高い。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が30.1%、否定的回答が42.8%である。大東町では肯定的回答が12.9%、否定的回答が61.3%、大須賀町では肯定的回答が10.5%、否定的回答が65.3%である。掛川市、大東町、大須賀町とも否定的回答が上回る。大東町と大須賀町では否定的回答がともに6割を超える。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	50	11	4	65
	割合	5.3%	2.4%	1.0%	3.6%
ほぼ満足している	回答数	233	47	39	319
	割合	24.8%	10.5%	9.5%	17.7%
どちらともいえない	回答数	215	95	79	389
	割合	22.9%	21.2%	19.2%	21.6%
やや不満である	回答数	191	100	118	409
	割合	20.3%	22.3%	28.6%	22.7%
不満である	回答数	211	175	151	537
	割合	22.5%	39.0%	36.7%	29.8%
わからない	回答数	39	21	21	81
	割合	4.2%	4.7%	5.1%	4.5%
合計	回答数	939	449	412	1800
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 15 道路、交通安全

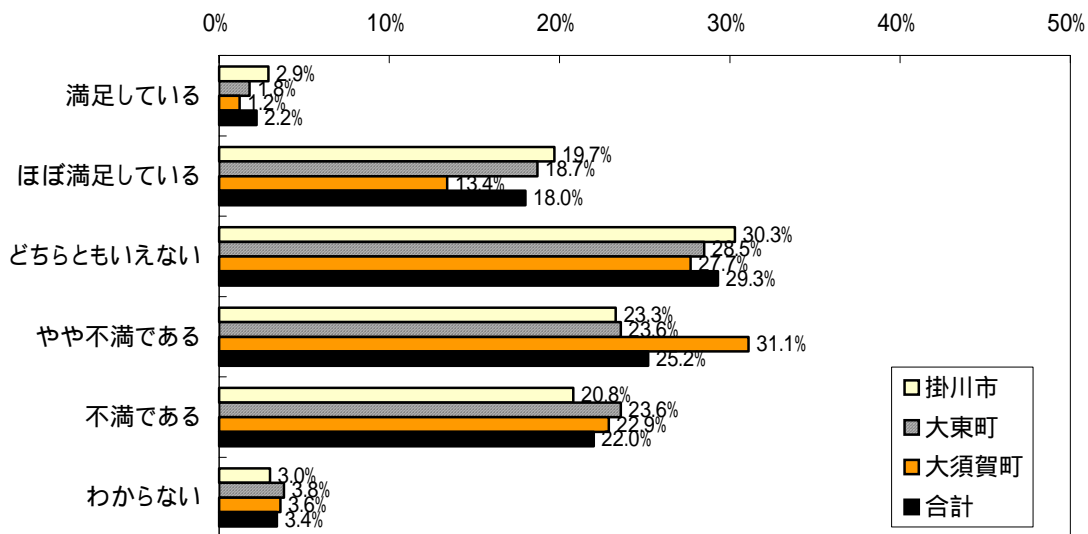
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は19.0%、「やや不満」「不満」の否定的回答は44.6%を占める。他の項目に比べて否定的回答が肯定的回答を大きく上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が22.6%、否定的回答が44.1%である。大東町では肯定的回答が20.5%、否定的回答が47.2%、大須賀町では肯定的回答が14.6%、否定的回答が54.0%である。掛川市、大東町、大須賀町とも否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	27	8	5	40
	割合	2.9%	1.8%	1.2%	2.2%
ほぼ満足している	回答数	183	83	55	321
	割合	19.7%	18.7%	13.4%	18.0%
どちらともいえない	回答数	282	127	114	523
	割合	30.3%	28.5%	27.7%	29.3%
やや不満である	回答数	217	105	128	450
	割合	23.3%	23.6%	31.1%	25.2%
不満である	回答数	194	105	94	393
	割合	20.8%	23.6%	22.9%	22.0%
わからない	回答数	28	17	15	60
	割合	3.0%	3.8%	3.6%	3.4%
合計	回答数	931	445	411	1787
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 16 公園・緑地

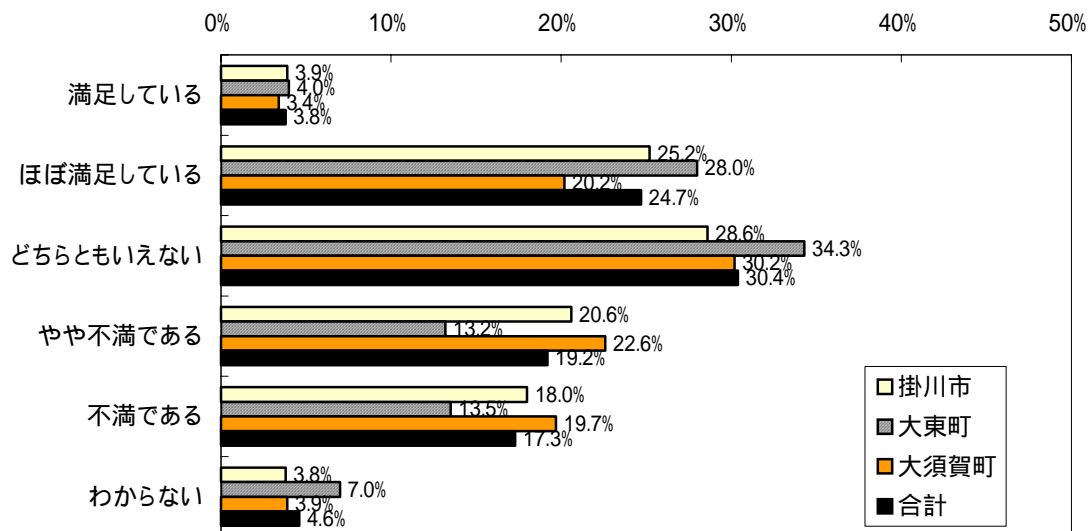
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は27.1%、「やや不満」「不満」の否定的回答は34.4%を占める。否定的回答が肯定的回答を上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が29.1%、否定的回答が38.6%である。大東町では肯定的回答が32.0%、否定的回答が26.7%、大須賀町では肯定的回答が23.6%、否定的回答が42.3%である。掛川市、大須賀町では否定的回答が上回り、大東町では肯定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	36	18	14	68
	割合	3.9%	4.0%	3.4%	3.8%
ほぼ満足している	回答数	235	125	83	443
	割合	25.2%	28.0%	20.2%	24.7%
どちらともいえない	回答数	267	153	124	544
	割合	28.6%	34.3%	30.2%	30.4%
やや不満である	回答数	192	59	93	344
	割合	20.6%	13.2%	22.6%	19.2%
不満である	回答数	168	60	81	309
	割合	18.0%	13.5%	19.7%	17.3%
わからない	回答数	35	31	16	82
	割合	3.8%	7.0%	3.9%	4.6%
合計	回答数	933	446	411	1790
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 17 街並み・景観

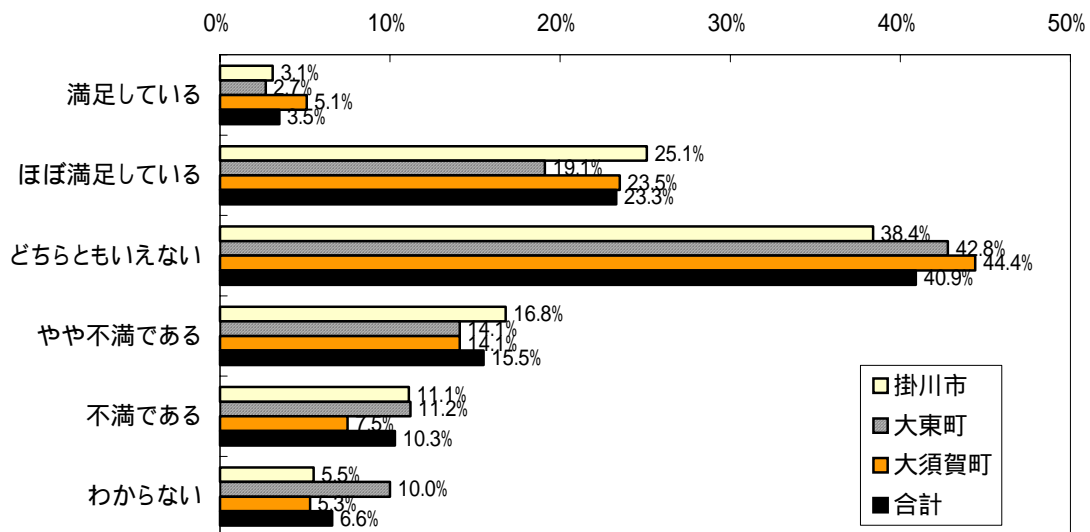
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は25.2%、「やや不満」「不満」の否定的回答は24.3%を占める。肯定的回答と否定的回答がほぼ拮抗している。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が28.2%、否定的回答が27.9%である。大東町では肯定的回答が21.8%、否定的回答が25.3%、大須賀町では肯定的回答が28.6%、否定的回答が21.6%である。掛川市、大須賀町では肯定的回答が上回り、大東町では否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	29	12	21	62
	割合	3.1%	2.7%	5.1%	3.5%
ほぼ満足している	回答数	235	84	97	416
	割合	25.1%	19.1%	23.5%	23.3%
どちらともいえない	回答数	359	188	183	730
	割合	38.4%	42.8%	44.4%	40.9%
やや不満である	回答数	157	62	58	277
	割合	16.8%	14.1%	14.1%	15.5%
不満である	回答数	104	49	31	184
	割合	11.1%	11.2%	7.5%	10.3%
わからない	回答数	51	44	22	117
	割合	5.5%	10.0%	5.3%	6.6%
合計	回答数	935	439	412	1786
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 1 8 防災施設・体制・防犯対策

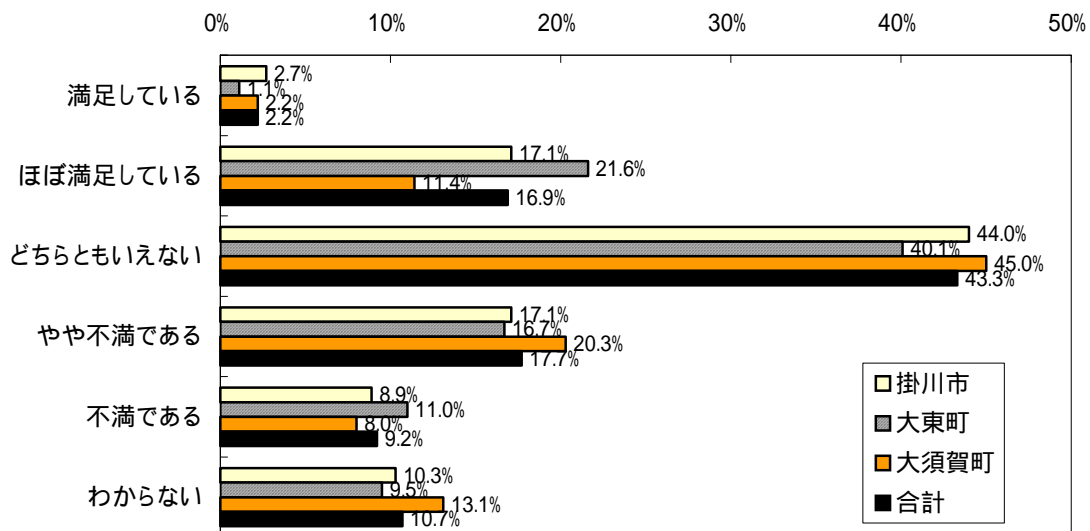
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は18.1%、「やや不満」「不満」の否定的回答は25.5%を占める。否定的回答が肯定的回答を上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が19.8%、否定的回答が26.0%である。大東町では肯定的回答が22.7%、否定的回答が27.7%、大須賀町では肯定的回答が13.6%、否定的回答が28.3%である。掛川市、大東町、大須賀町とも否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	25	5	9	39
	割合	2.7%	1.1%	2.2%	2.2%
ほぼ満足している	回答数	160	96	47	303
	割合	17.1%	21.6%	11.4%	16.9%
どちらともいえない	回答数	412	178	186	776
	割合	44.0%	40.1%	45.0%	43.3%
やや不満である	回答数	160	74	84	318
	割合	17.1%	16.7%	20.3%	17.7%
不満である	回答数	83	49	33	165
	割合	8.9%	11.0%	8.0%	9.2%
わからない	回答数	96	42	54	192
	割合	10.3%	9.5%	13.1%	10.7%
合計	回答数	936	444	413	1793
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 19 情報通信基盤

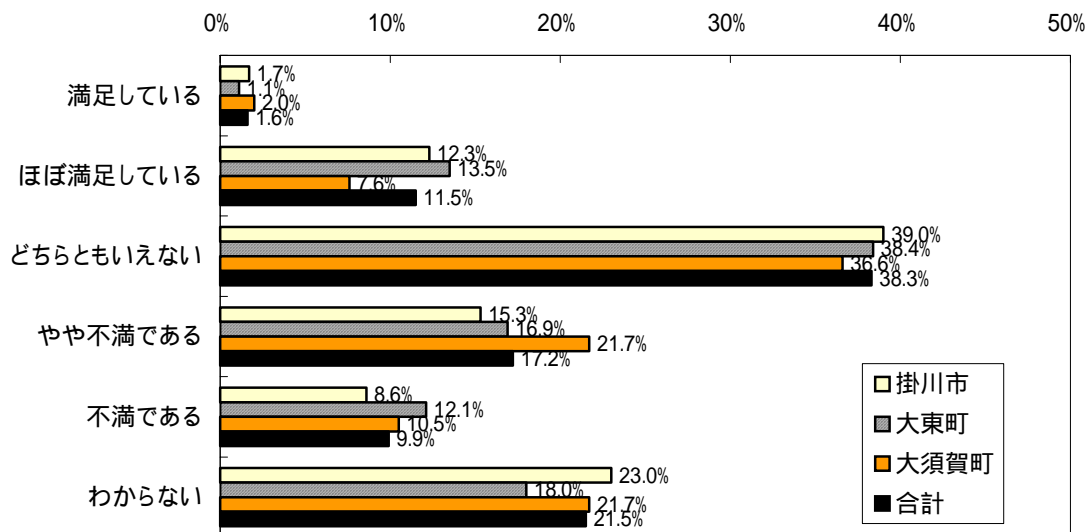
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は12.4%、「やや不満」「不満」の否定的回答は25.5%を占める。否定的回答が肯定的回答を上回る。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が14.0%、否定的回答が23.9%である。大東町では肯定的回答が14.6%、否定的回答が29.0%、大須賀町では肯定的回答が9.6%、否定的回答が32.2%である。掛川市、大東町、大須賀町とも否定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	16	5	8	29
	割合	1.7%	1.1%	2.0%	1.6%
ほぼ満足している	回答数	115	60	31	206
	割合	12.3%	13.5%	7.6%	11.5%
どちらともいえない	回答数	364	171	150	685
	割合	39.0%	38.4%	36.6%	38.3%
やや不満である	回答数	143	75	89	307
	割合	15.3%	16.9%	21.7%	17.2%
不満である	回答数	80	54	43	177
	割合	8.6%	12.1%	10.5%	9.9%
わからない	回答数	215	80	89	384
	割合	23.0%	18.0%	21.7%	21.5%
合計	回答数	933	445	410	1788
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 20 国際交流・国際化

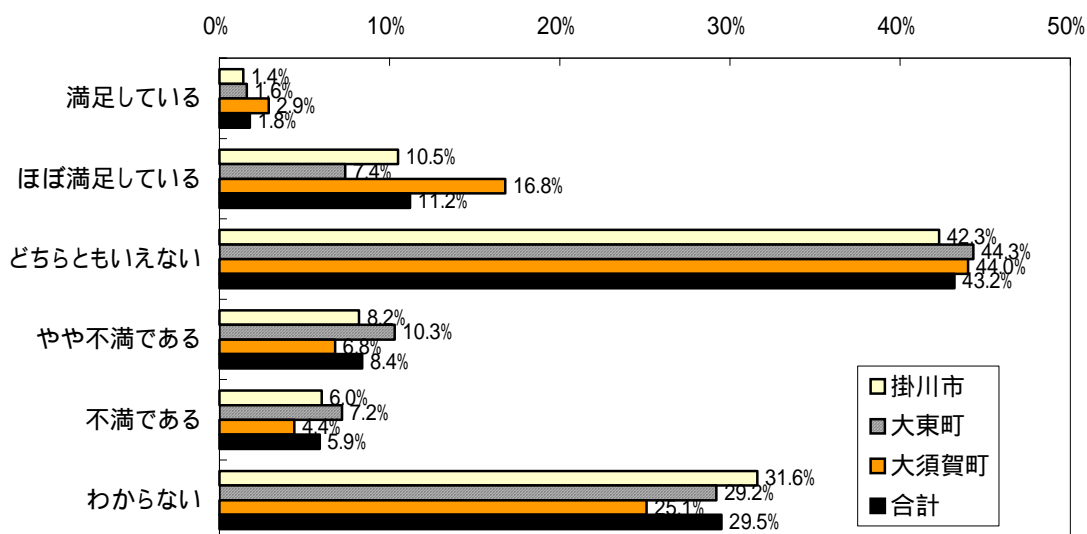
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は12.2%、「やや不満」「不満」の否定的回答は13.6%を占める。肯定的回答と否定的回答がほぼ拮抗している。「どちらともいえない」「わからない」が約7割を占める。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が11.9%、否定的回答が14.2%である。大東町では肯定的回答が9.0%、否定的回答が17.5%、大須賀町では肯定的回答が19.7%、否定的回答が11.2%である。掛川市、大東町では否定的回答が上回り、大須賀町では肯定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	13	7	12	32
	割合	1.4%	1.6%	2.9%	1.8%
ほぼ満足している	回答数	98	33	69	200
	割合	10.5%	7.4%	16.8%	11.2%
どちらともいえない	回答数	395	197	181	773
	割合	42.3%	44.3%	44.0%	43.2%
やや不満である	回答数	77	46	28	151
	割合	8.2%	10.3%	6.8%	8.4%
不満である	回答数	56	32	18	106
	割合	6.0%	7.2%	4.4%	5.9%
わからない	回答数	295	130	103	528
	割合	31.6%	29.2%	25.1%	29.5%
合計	回答数	934	445	411	1790
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



9 - 2 1 コミュニティ、ボランティア活動、住民参加、男女共同参画

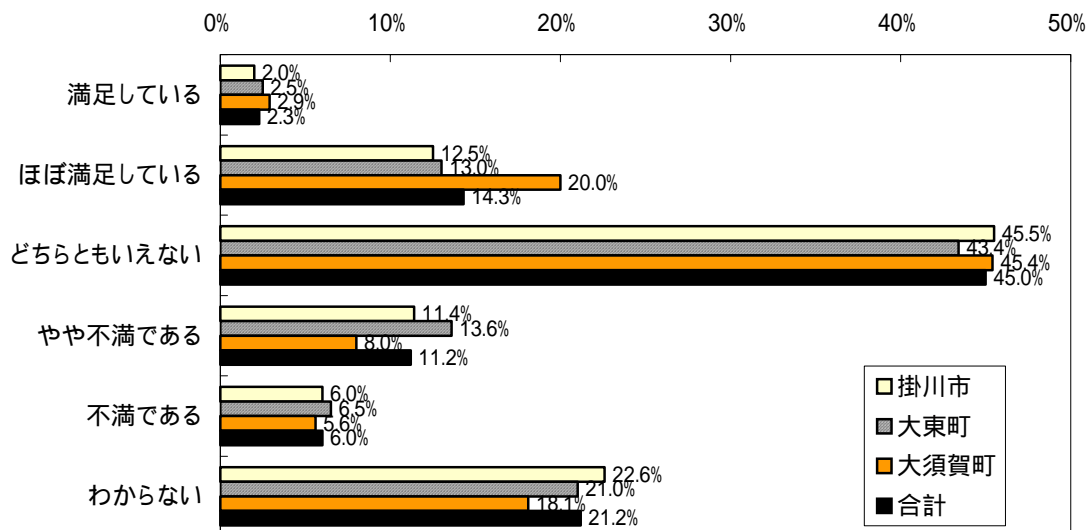
【全体】

「満足」「ほぼ満足」の肯定的回答は15.9%、「やや不満」「不満」の否定的回答は16.3%を占める。肯定的回答と否定的回答がほぼ拮抗している。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では肯定的回答が14.5%、否定的回答が17.4%である。大東町では肯定的回答が15.5%、否定的回答が20.1%、大須賀町では肯定的回答が22.9%、否定的回答が13.6%である。掛川市、大東町では否定的回答が上回り、大須賀町では肯定的回答が上回る。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
満足している	回答数	19	11	12	42
	割合	2.0%	2.5%	2.9%	2.3%
ほぼ満足している	回答数	117	58	83	258
	割合	12.5%	13.0%	20.0%	14.3%
どちらともいえない	回答数	427	194	188	809
	割合	45.5%	43.4%	45.4%	45.0%
やや不満である	回答数	107	61	33	201
	割合	11.4%	13.6%	8.0%	11.2%
不満である	回答数	56	29	23	108
	割合	6.0%	6.5%	5.6%	6.0%
わからない	回答数	212	94	75	381
	割合	22.6%	21.0%	18.1%	21.2%
合計	回答数	938	447	414	1799
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



問 10 新都市のまちづくりに積極的に活用していくべき資源（自然環境、立地条件、各種施設など）は何でしょうか。（複数回答）

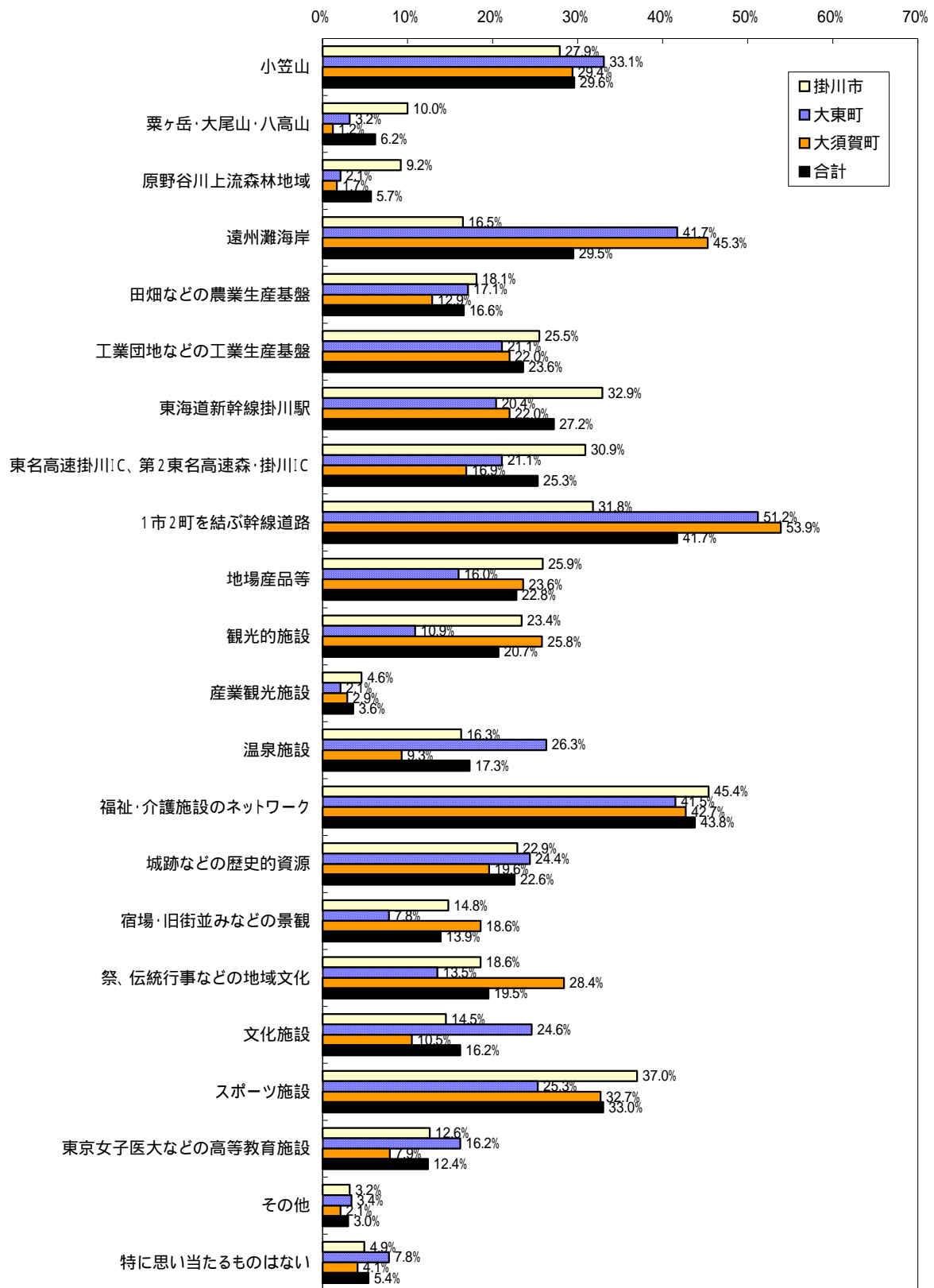
【全体】

まちづくりに活用すべき資源は、「福祉・介護施設のネットワーク」（43.8%）「1市2町を結ぶ幹線道路」（41.7%）「スポーツ施設」（33.0%）が上位を占め、既存施設を積極的に新市のまちづくりに生かす意向がうかがえる。この他「小笠山」（29.5%）「遠州灘」（29.4%）といった自然環境の活用の意向もうかがえる。（居住地に関して無回答者がいるため、次頁以降の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市では「福祉・介護施設のネットワーク」（45.4%）「スポーツ施設」（37.0%）「東海道新幹線掛川駅」（32.9%）が上位を占める。大東町と大須賀町では第1位から第3位回答の順番が同じであり、「1市2町を結ぶ幹線道路」（大東町51.2%、大須賀町53.9%）、「遠州灘」（大東町41.7%、大須賀町45.3%）、「福祉・介護施設のネットワーク」（大東町41.5%、大須賀町42.7%）が上位を占める。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
小笠山	回答数	269	157	123	549
	割合	27.9%	33.1%	29.4%	29.6%
粟ヶ岳・大尾山・八高山	回答数	96	15	5	116
	割合	10.0%	3.2%	1.2%	6.2%
原野谷川上流森林地域	回答数	89	10	7	106
	割合	9.2%	2.1%	1.7%	5.7%
遠州灘海岸	回答数	159	198	190	547
	割合	16.5%	41.7%	45.3%	29.5%
田畑などの農業生産基盤	回答数	174	81	54	309
	割合	18.1%	17.1%	12.9%	16.6%
工業団地などの工業生産基盤	回答数	246	100	92	438
	割合	25.5%	21.1%	22.0%	23.6%
東海道新幹線掛川駅	回答数	317	97	92	506
	割合	32.9%	20.4%	22.0%	27.2%
東名高速掛川IC、第2東名高速森・掛川IC	回答数	298	100	71	469
	割合	30.9%	21.1%	16.9%	25.3%
1市2町を結ぶ幹線道路	回答数	306	243	226	775
	割合	31.8%	51.2%	53.9%	41.7%
地場産品等	回答数	249	76	99	424
	割合	25.9%	16.0%	23.6%	22.8%
観光的施設	回答数	225	52	108	385
	割合	23.4%	10.9%	25.8%	20.7%
産業観光施設	回答数	44	10	12	66
	割合	4.6%	2.1%	2.9%	3.6%
温泉施設	回答数	157	125	39	321
	割合	16.3%	26.3%	9.3%	17.3%
福祉・介護施設のネットワーク	回答数	437	197	179	813
	割合	45.4%	41.5%	42.7%	43.8%
城跡などの歴史的資源	回答数	221	116	82	419
	割合	22.9%	24.4%	19.6%	22.6%
宿場・旧街並みなどの景観	回答数	143	37	78	258
	割合	14.8%	7.8%	18.6%	13.9%
祭、伝統行事などの地域文化	回答数	179	64	119	362
	割合	18.6%	13.5%	28.4%	19.5%
文化施設	回答数	140	117	44	301
	割合	14.5%	24.6%	10.5%	16.2%
スポーツ施設	回答数	356	120	137	613
	割合	37.0%	25.3%	32.7%	33.0%
東京女子医大などの高等教育施設	回答数	121	77	33	231
	割合	12.6%	16.2%	7.9%	12.4%
その他	回答数	31	16	9	56
	割合	3.2%	3.4%	2.1%	3.0%
特に思い当たるものはない	回答数	47	37	17	101
	割合	4.9%	7.8%	4.1%	5.4%
合計	回答数	4,304	2,045	1,816	8,165
	回答者数	963	475	419	1,857



問 11 新都市はどのような姿が望ましいでしょうか。（複数回答）

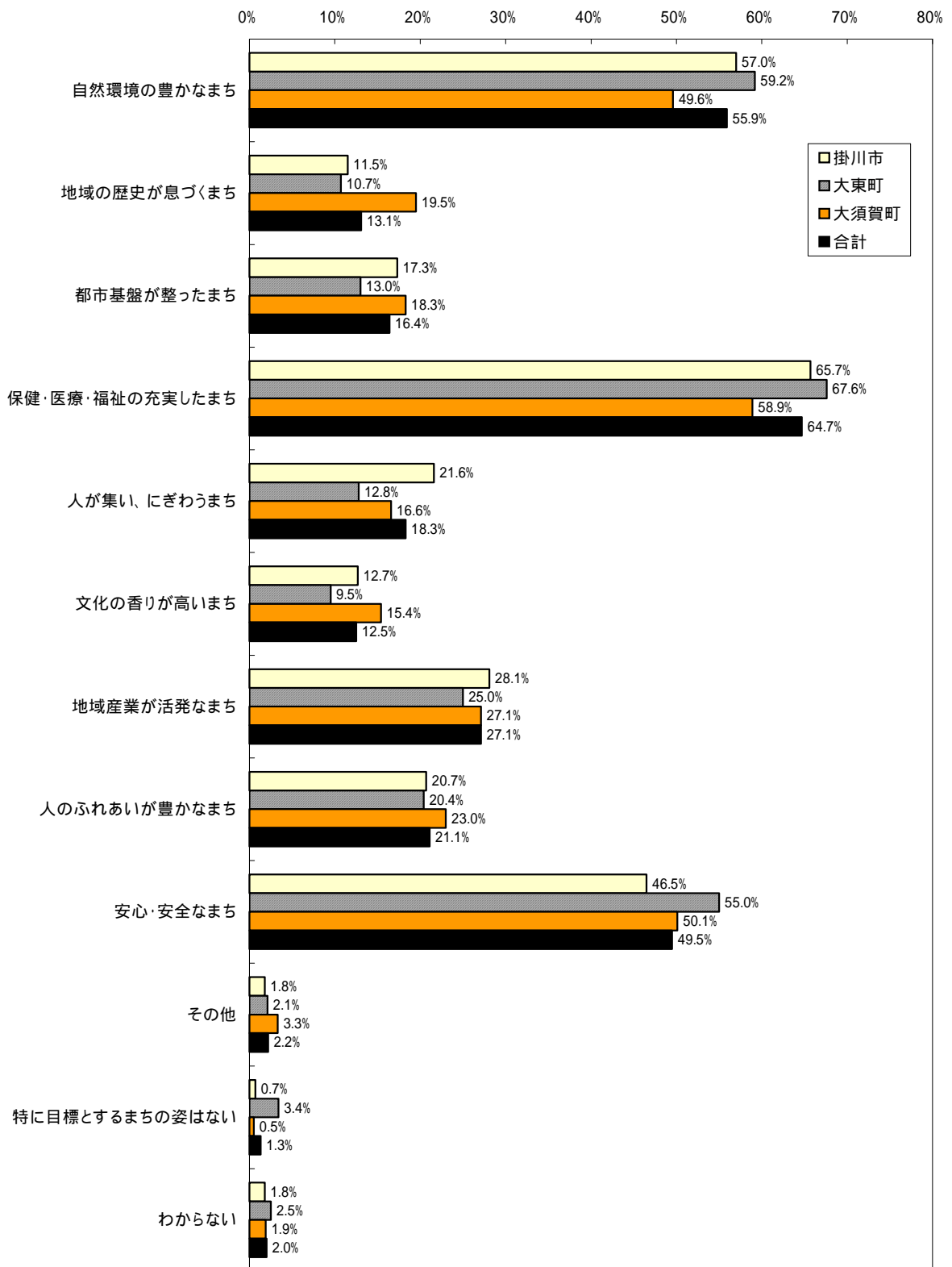
【全体】

新都市の望ましい姿は、「保健・医療・福祉の充実したまち」（64.7%）が最も高い。次いで「自然環境の豊かなまち」（56.0%）、「安心・安全なまち」（49.4%）が上位を占める。（居住地に関して無回答者がいるため、下記図表の合計欄数値と若干の乖離がある。）

【地域別】

掛川市、大東町、大須賀町ともに「保健・医療・福祉の充実したまち」が第1位回答（掛川市65.7%、大東町67.6%、大須賀町58.9%）である。次いで掛川市と大東町の第2位回答は「自然環境の豊かなまち」（掛川市57.0%、大東町59.2%）、第3位回答は「安心・安全なまち」（掛川市46.5%、大東町55.0%）である。一方、大須賀町では、第2位回答は「安心・安全なまち」（50.1%）、第3位回答は「自然環境の豊かなまち」（49.6%）である。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
自然環境の豊かなまち	回答数	551	282	209	1042
	割合	57.0%	59.2%	49.6%	55.9%
地域の歴史が息づくまち	回答数	111	51	82	244
	割合	11.5%	10.7%	19.5%	13.1%
都市基盤が整ったまち	回答数	167	62	77	306
	割合	17.3%	13.0%	18.3%	16.4%
保健・医療・福祉の充実したまち	回答数	635	322	248	1205
	割合	65.7%	67.6%	58.9%	64.7%
人が集い、にぎわうまち	回答数	209	61	70	340
	割合	21.6%	12.8%	16.6%	18.3%
文化の香りが高いまち	回答数	123	45	65	233
	割合	12.7%	9.5%	15.4%	12.5%
地域産業が活発なまち	回答数	271	119	114	504
	割合	28.1%	25.0%	27.1%	27.1%
人のふれあいが豊かなまち	回答数	200	97	97	394
	割合	20.7%	20.4%	23.0%	21.1%
安心・安全なまち	回答数	449	262	211	922
	割合	46.5%	55.0%	50.1%	49.5%
その他	回答数	17	10	14	41
	割合	1.8%	2.1%	3.3%	2.2%
特に目標とするまちの姿はない	回答数	7	16	2	25
	割合	0.7%	3.4%	0.5%	1.3%
わからない	回答数	17	12	8	37
	割合	1.8%	2.5%	1.9%	2.0%
合計	回答数	2,757	1,339	1,197	5,293
	回答者数	966	476	421	1,863



**問 12 1市2町が合併した場合、優先的に取り組むべき施策とは何でしょうか。
(複数回答)**

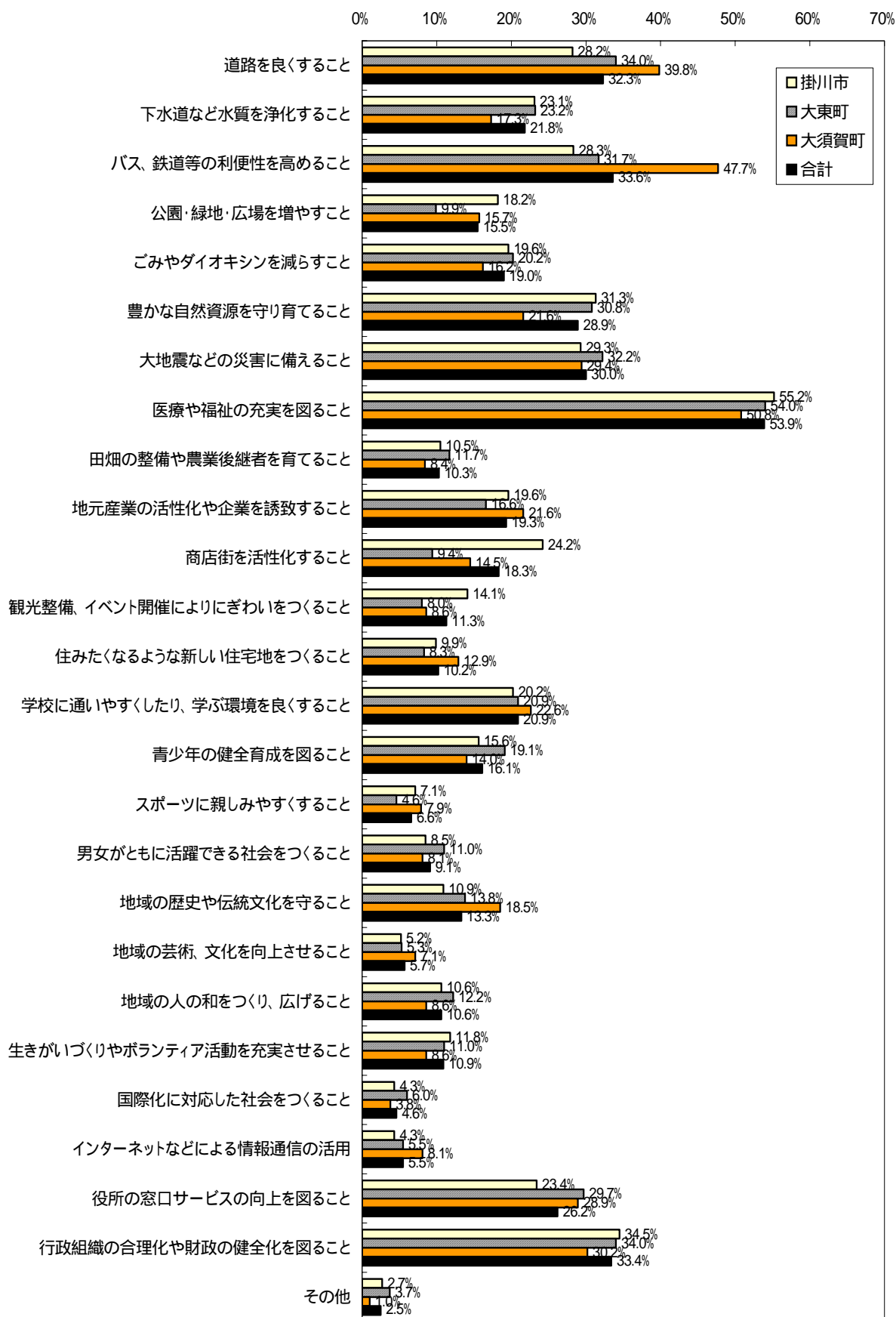
【全体】

合併した場合、優先的に取り組むべき施策は、「医療や福祉の充実を図ること」(53.9%)が最も高く、問11の新市の望ましい姿と同一テーマが選択されている。この他「バス、鉄道等の利便性を高めること」(33.5%)、「行政組織の合理化や財政の健全化を図ること」(33.4%)、「道路を良くすること」(32.3%)、「大地震などの災害に備えること」(30.0%)が上位を占める。(居住地に関して無回答者がいるため、次頁以降の図表の合計欄数値と若干の乖離がある。)

【地域別】

掛川市、大東町、大須賀町ともに「医療や福祉の充実を図ること」が第1位回答(掛川市55.2%、大東町54.0%、大須賀町50.8%)である。掛川市では次いで「行政組織の合理化や財政の健全化を図ること」(34.5%)「豊かな自然資源を守り育てること」(31.3%)が上位を占める。大東町では「行政組織の合理化や財政の健全化を図ること」(34.0%)「道路を良くすること」(34.0%)が上位を占める。大須賀町では「バス、鉄道等の利便性を高めること」(47.7%)「道路を良くすること」(39.8%)が上位を占める。

		掛川市	大東町	大須賀町	合計
道路を良くすること	回答数	254	148	157	559
	割合	28.2%	34.0%	39.8%	32.3%
下水道など水質を浄化すること	回答数	208	101	68	377
	割合	23.1%	23.2%	17.3%	21.8%
バス、鉄道等の利便性を高めること	回答数	255	138	188	581
	割合	28.3%	31.7%	47.7%	33.6%
公園・緑地・広場を増やすこと	回答数	164	43	62	269
	割合	18.2%	9.9%	15.7%	15.5%
ごみやダイオキシンを減らすこと	回答数	177	88	64	329
	割合	19.6%	20.2%	16.2%	19.0%
豊かな自然資源を守り育てること	回答数	282	134	85	501
	割合	31.3%	30.8%	21.6%	28.9%
大地震などの災害に備えること	回答数	264	140	116	520
	割合	29.3%	32.2%	29.4%	30.0%
医療や福祉の充実を図ること	回答数	498	235	200	933
	割合	55.2%	54.0%	50.8%	53.9%
田畑の整備や農業後継者を育てること	回答数	95	51	33	179
	割合	10.5%	11.7%	8.4%	10.3%
地元産業の活性化や企業を誘致すること	回答数	177	72	85	334
	割合	19.6%	16.6%	21.6%	19.3%
商店街を活性化すること	回答数	218	41	57	316
	割合	24.2%	9.4%	14.5%	18.3%
観光整備、イベント開催によりにぎわいをつくること	回答数	127	35	34	196
	割合	14.1%	8.0%	8.6%	11.3%
住みたくくなるような新しい住宅地をつくること	回答数	89	36	51	176
	割合	9.9%	8.3%	12.9%	10.2%
学校に通いやすしたり、学ぶ環境を良くすること	回答数	182	91	89	362
	割合	20.2%	20.9%	22.6%	20.9%
青少年の健全育成を図ること	回答数	141	83	55	279
	割合	15.6%	19.1%	14.0%	16.1%
スポーツに親しみやすくすること	回答数	64	20	31	115
	割合	7.1%	4.6%	7.9%	6.6%
男女がともに活躍できる社会をつくること	回答数	77	48	32	157
	割合	8.5%	11.0%	8.1%	9.1%
地域の歴史や伝統文化を守ること	回答数	98	60	73	231
	割合	10.9%	13.8%	18.5%	13.3%
地域の芸術、文化を向上させること	回答数	47	23	28	98
	割合	5.2%	5.3%	7.1%	5.7%
地域の人の和をつくり、広げること	回答数	96	53	34	183
	割合	10.6%	12.2%	8.6%	10.6%
生きがいづくりやボランティア活動を充実させること	回答数	106	48	34	188
	割合	11.8%	11.0%	8.6%	10.9%
国際化に対応した社会をつくること	回答数	39	26	15	80
	割合	4.3%	6.0%	3.8%	4.6%
インターネットなどによる情報通信の活用	回答数	39	24	32	95
	割合	4.3%	5.5%	8.1%	5.5%
役所の窓口サービスの向上を図ること	回答数	211	129	114	454
	割合	23.4%	29.7%	28.9%	26.2%
行政組織の合理化や財政の健全化を図ること	回答数	311	148	119	578
	割合	34.5%	34.0%	30.2%	33.4%
その他	回答数	24	16	4	44
	割合	2.7%	3.7%	1.0%	2.5%
合計	回答数	4,243	2,031	1,860	8,134
	回答者数	902	435	394	1,731



重要課題（新市の背骨となる南北軸の形成）の解決に向けた考え方

（１）南北幹線道路の実現の考え方

早期実現に向けた考え方

1市2町の背骨となる南北幹線道路の確保に際して、早期に実現を図る考え方である。南北幹線道路を短期的に確保するためには、現在整備が進められている広域農道を活用することが望まれる。高瀬地区から掛川市街地に抜ける道路を早期に開通させることによって、大須賀町から掛川市への到達時間の短縮化や、朝夕渋滞が発生する掛川大東線への車両集中を分散させることが期待できる。

抜本的な解決に向けた考え方

1市2町の背骨となる南北幹線道路の確保に際して、抜本的な解決を図る考え方である。抜本的な解決策としては、南北幹線道路の新設、あるいは大須賀町から一部袋井市を通過し掛川市に至る県道の改良などが考えられる。いずれにしても早期に整備を完了させることは困難であり、長期的な取り組みとして、掛川大東線と併せて南北方向に二本の幹線道路を確保する考え方である。

（２）地域特性に応じた交通システムの導入の考え方

中心市街地間を結ぶ交通システムの考え方

1市2町の中心市街地を結ぶ交通システムとして、路線バスの活用が考えられる。既設路線バスの見直し、コミュニティバスの導入等によって、大須賀町から直接掛川駅に到着できる路線バスを開設する考え方である。

山間地における交通システムの考え方

市街地よりも人口密度の低い山間地の交通システムとして、乗合タクシーの導入、公用車レンタル事業等が考えられる。乗合タクシーは10人乗り以下のワゴン車両等で運行を行うものであり、個人のタクシー利用よりも運賃は安くなる。公用車レンタル事業は、交通不便な地域に公用車を無料で貸出し、地域住民がガソリン代を負担しつつ自主的に運転する方式である。

（３）情報ネットワークの形成の考え方

新市の一体感醸成に向けた情報ネットワークの考え方

1市2町が新市として一つにまとまり、住民が一体感や連帯感を持つことが望まれる。こうした状況を創り出すために、コミュニティFM、CATVといった情報ネットワークを活用することが望まれる。

新市の行政情報、日常生活に密着した地域情報を流し、1市2町の住民が新市に関して共通した情報を持つことによって、新市の一体感を早期に醸成できる。

利便性向上に向けた情報ネットワークの考え方

住民の利便性向上のためには、自宅や身近な公共施設から申請手続きや行政情報の入手ができたり、離れた公共施設で開催される講習会を自宅や身近な公共施設で受講できる仕組みを提供することが望まれる。

また、行政の効率化を進める上でも、離れた庁舎や公共施設間の往来の省力化や意思疎通の向上を図ることか必要である。住民の利便性向上、行政の効率化を実現していくために、インターネットの活用したりテレビ会議システム等の導入し、1市2町の庁舎や公共施設間の「距離」を縮めることが可能である。

(4) 小笠山山麓への新たな保養ゾーン創設の考え方

「鑑賞」を中心とした保養ゾーンの考え方

小笠山山麓の活用方法として、小笠山が抱える自然環境の「鑑賞」を中心とした保養ゾーンの創設が考えられる。樹林、草花、野鳥、眺望などを鑑賞できるように、ハイキングコース、観察施設、ハーブガーデンなどを整備し、自然を眺めることによって心身のリフレッシュを促す考え方である。

「体験」を中心とした保養ゾーンの考え方

小笠山山麓の活用方法として、農業や林業などの「体験」を中心とした保養ゾーンの創設が考えられる。山麓の休耕地等を活用して、体験農園、貸し農園、加工所、木工所などを整備し、農作業や加工作業を通じて、心身のリフレッシュを促す考え方である。

「検査」を中心とした保養ゾーンの考え方

小笠山山麓の活用方法として、人間ドック、健康診断などの医学的な「検査」を中心とした保養ゾーンの創設が考えられる。医療機関との連携によって検査中心の医療施設を創設し、住民の予防医学を実践、指導して身体のリフレッシュを促す考え方である。

「療法」を中心とした保養ゾーンの考え方

小笠山山麓の活用方法として、園芸療法、乗馬療法などの自然環境を生かした「療法」を中心とした保養ゾーンの創設が考えられる。栽培施設や小牧場を整備し、療法士の指導のもとに植物の世話、動物とのふれあいや調教などを行い、心身のリフレッシュを促す考え方である。

(5) 高次都市機能（研究開発機能）の誘致、創設の考え方

テーマを絞込み誘致する考え方

研究開発機能の誘致に際しては、特定のテーマに特化することが望まれる。緑茶、種苗、予防医学な

ど、新市の地域資源と関係のある分野に着目し、立地に対する支援を明確に打ち出して誘致する考え方である。

有力企業の関連研究開発機能を誘致する考え方

研究開発機能の誘致に際しては、現在新市に立地している有力企業に着目することが望まれる。たとえば新市の有力企業の一つである液晶ガラスメーカー等に着目し、その研究開発機関が求める条件を把握し、その条件整備を進めて誘致する考え方である。

大学との連携により研究開発機能を誘致する考え方

研究開発機能の誘致に際しては、新市に立地している大学、あるいは県内の大学と連携することが望まれる。先進的な研究者に着目し、その研究を応援する環境を提供し、関連する企業の研究開発部門を誘致する考え方である。